

令和元年度（平成30年度対象）

碧南市教育委員会 点検評価報告書

令和元年11月

碧 南 市 教 育 委 員 会

目 次

1	はじめに	1
2	教育委員会点検・評価の流れ	2
3	教育委員会の体制	2
4	教育委員会の活動状況	3
5	各課等の主要事業の評価	6
6	総合計画の施策に対する取り組み	4 3
資料	第5次碧南市総合計画における成果目標一覧表	5 2

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に、各教育委員会は、毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について、学識経験者の知見の活用を図りつつ点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することが規定されています。

本市教育委員会においても、効率的・効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、毎年、点検及び評価を実施しています。

本報告書は、平成30年度に教育委員会が管理及び執行した事務につきまして、点検及び評価を行った結果を報告するものです。

報告書の構成につきましては、まず、1年間の教育委員会の活動内容をお知らせするために、教育委員会の定例会・臨時会の開催状況などを一覧表にまとめました。

次に、各課において特に継続的な進捗管理や推進が求められる事業を主要事業として取り上げ、個々に点検及び評価を行いました。各主要事業の取り組み内容から、その成果を明らかにし、残されている課題と外部評価者の評価を踏まえ、今後の取り組み方向を導き出し、次年度以降の事業実施に反映させていくように努めました。（PDCAサイクルの活用）

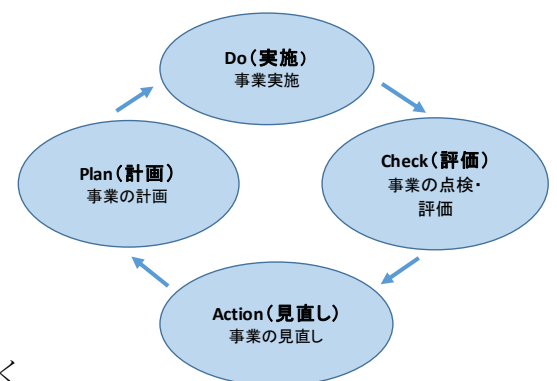
最後に、教育委員会が実施したすべての事業を、総合計画及び教育大綱の主要施策の方向ごとに分類し、総合計画の実現に向けた取り組み内容として整理しました。

なお、点検及び評価につきましては、引き続き愛知教育大学名誉教授の神谷孝男氏に指導助言をいただきました。

点検評価の結果を踏まえ、今後も効率的・効果的な教育行政の推進を図り、碧南市の教育の一層の充実に努めてまいります。

（参考）

PDCAサイクルに基づいた事業実施



○ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律

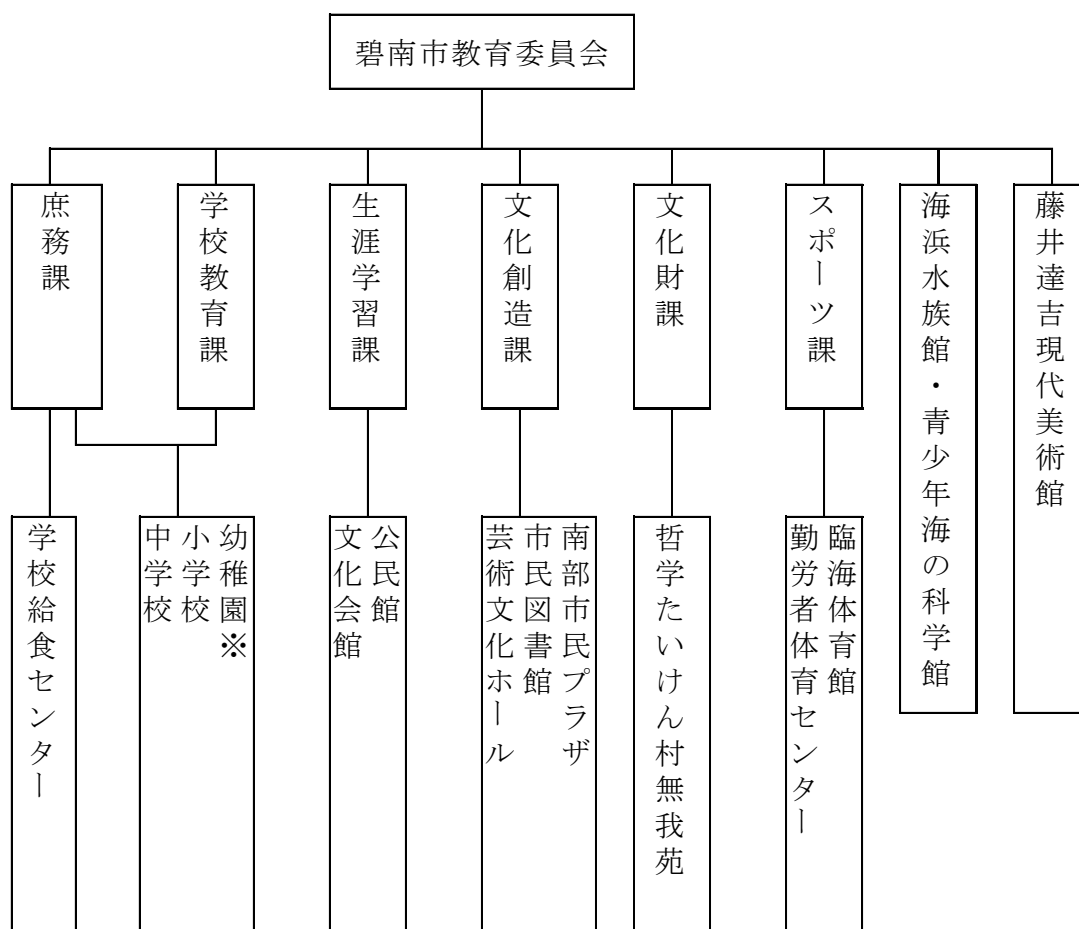
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 教育委員会点検・評価の流れ

日程	作業内容
30年度中	教育行政方針の策定、教育行政方針に基づく事業等の実施
6～7月	各課による点検・評価表に基づく評価 (主要施策成果報告書、「へきなんの教育」作成における事業の実施状況の点検)
7～9月	学識経験を有する者の知見の活用(外部評価) (外部評価者によるヒアリング)
9～10月	評価結果を踏まえた各課による今後の取り組み方向の検討
10月	教育委員会での検討 教育委員会点検・評価報告書の作成
11月	教育委員会点検・評価報告書の公表等 (議会へ提出するとともにホームページにより広く市民へ公表)

3 教育委員会の体制(平成31年3月31日現在)



※幼稚園事務は、こども課で補助執行を行っています。

4 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会のしくみ

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育長及び4人の委員で構成し、教育行政に関する基本的な施策の決定と重要な案件の審議を行っています。

教育長は、当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有するもののうちから、委員は、当該地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、地方公共団体の長が議会の同意を得て任命することとなっています。

(2) 教育委員会の構成（平成31年3月31日現在）

職 名	氏 名	任 期（最新）
教 育 長	生田 弘幸	平成30年4月1日から令和3年3月31日まで
委 員 （教育長職務代理）	池田香代子	平成27年10月1日から令和元年9月30日まで
委 員	高橋世利子	平成30年10月1日から令和4年9月30日まで
委 員	伊藤 正幸	平成28年10月1日から令和2年9月30日まで
委 員	磯貝 暢宏	平成29年10月1日から令和3年9月30日まで

(3) 教育委員会の開催状況

平成30年度の開催状況は、定例会12回、臨時会1回、合計13回開催しました。定例会及び臨時会での審議内容は、協議事項18件、報告事項28件、合計46件です。

ア 定例会の開催状況

開催日	議 題
4月定例会 4月18日	報告事項 ア 3月議会総括質疑内容及び回答について イ 小中学校みどりの学校実施について ウ 教育相談事業報告について
5月定例会 5月24日	報告事項 ア 平成30年度学校教育課学校訪問予定について イ 平成30年度6月補正予算（案）について
6月定例会 6月26日	協議事項 ア 愛知県教科用図書採択地区の適正規模化に係る意向調査について 報告事項 ア 要保護・準要保護児童生徒の認定について イ 平成30年度小中学校の研究主題について ウ 碧南市教育委員会附属機関の委員について
7月定例会 7月19日	協議事項 ア 平成31年度使用小学校及び中学校教科用図書採択について 報告事項 ア 6月議会一般質問内容及び回答について

8月定例会 8月17日	協議事項 ア 碧南地域文化広場に関する条例および規則の改正について 報告事項 ア 主要施策成果報告書について イ 平成30年度9月補正予算（案）について ウ 就学時健康診断について エ 平成29年度芸術文化ホール指定管理者実績報告について オ 碧南市芸術文化ホール指定管理者候補者の選定結果について
9月定例会 9月21日	協議事項 ア 碧南市教育委員会教育長職務代理者の指名について イ 平成31年度学校教育予算に関する要望書について 報告事項 ア 平成30年度教育委員会学校教育課諸帳簿点検を終えて
10月定例会 10月18日	協議事項 ア 平成30年度碧南市教育委員会点検・評価報告書について 報告事項 ア 9月議会一般質問内容及び回答について
11月定例会 11月20日	協議事項 ア 平成31年度学校行事の日程（案）について イ 碧南市就学援助費事務取扱規程の全部改正について ウ 碧南海浜水族館の管理に関する規則の一部改正について 報告事項 ア 平成30年度12月補正予算（案）について
12月定例会 12月20日	報告事項 ア 平成30年度教育委員会事務局学校訪問を終えて イ 平成31年成人の日における記念行事について ウ 碧南市文化財指定に係る諮問について
1月定例会 1月17日	協議事項 ア 平成31年度教育行政方針について 報告事項 ア 12月議会一般質問内容及び回答について イ 「卒業生に贈る言葉」について ウ 新入学児童生徒数の状況について
2月定例会 2月14日	協議事項 ア 碧南市立学校管理規則の一部改正について イ 碧南市教育委員会決裁規程の一部改正について ウ 碧南市市民図書館の管理に関する規則の一部改正について エ 平成31年度学校教育の指導方針並びに学校経営の努力目標（案）について オ 平成31年度学校行事の日程変更（案）について カ 碧南市文化財の新指定について 報告事項 ア 平成30年度策定碧南市実施計画について

	イ 平成31年度教育委員会各課主要事業について ウ 平成30年度3月補正予算（案）について
3月定例会 3月20日	協議事項 ア 平成31年度職員の人事異動について 報告事項 ア 平成30年度碧南市立小中学校のインフルエンザ様疾患による臨時休業日数等について イ 民法改正による成人年齢引き下げ後の成人式について

イ 臨時会の開催状況

開催日	議 題
3月臨時会 3月5日	協議事項 ア 平成31年度教員人事異動について

(4) 教育委員会の活動状況（教育委員会議は除く）

年月日	内容	場所
平成30年 5月26日 平成30年 9月15日	小学校運動会 中学校体育大会	各小中学校 各中学校
平成30年 5月30日	教育行政視察	静岡県静岡市
平成30年 7月13日	愛知県市町村教育委員会連 合会定期総会・研修会	江南市
平成30年 6月25日 平成30年 9月27日 平成30年10月 1日 平成30年10月22日	学校訪問	棚尾小学校 新川小学校 新川中学校 日進小学校
平成30年 7月 2日	研究発表会	中央小学校
(学校ごとに異なる)	小学校学芸会	各小学校
平成30年11月20日	市長との予算協議	市役所
平成31年 3月 5日	中学校卒業式	各中学校
平成31年 3月20日	小学校卒業式	各小学校

5 各課等の主要事業の評価

(1) 主要事業一覧（総合計画における位置づけの順に掲載）

No.	種別	評 価 事 業	課（施設）名
1	継続	日本語教育支援充実事業	学校教育課
2	継続	学校給食への地場産物の活用の推進	庶務課（学校給食センター）
3	継続	学校施設の耐震化・老朽化対策	庶務課
4	継続	学ばまい生涯学習	生涯学習課
5	継続	スポーツ活動の推進及び日常化	スポーツ課
6	継続	無我苑自主事業	文化財課（無我苑）
7	継続	企画展開催事業	藤井達吉現代美術館
8	継続	教育普及事業	藤井達吉現代美術館
9	継続	文化財の啓発事業	文化財課
10	継続	図書館利用拡大のための事業	文化創造課（市民図書館）
11	継続	水族館・科学館活動実施事業	海浜水族館・青少年海の科学館
12	継続	水族館・科学館整備事業	海浜水族館・青少年海の科学館

主要事業名	1.日本語教育支援充実事業	所属課	学校教育課
-------	---------------	-----	-------

1 総合計画での位置づけ

第4章第1節2 生きる力を育む義務教育の充実 ①教育内容や環境の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的

来日直後の日本語教育が必要な児童生徒に対して、サバイバル日本語の学習を通じて、日本の学校生活や社会生活に関する最低限のルールを理解し、最低限の意思疎通が可能となるよう日本語の初期指導を行う。

評価対象とした理由

日本語の初期指導を必要とする児童生徒が年々増加している状況から、平成28年度に新規事業として初期指導教室を開設した。今後の事業推進にあたり、より良い方法を検討していきたい。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	元年度予算額
6,440千円	7,663千円	8,580千円

4 取り組みの内容【D】

(1) 日本語初期指導教室の実施概要

来日直後の児童生徒に対して、学校外において日本語初期指導教室を開設し、就学直後3ヶ月程度、在籍校の1時限目から給食の時間前までの間、日本の生活習慣や学校生活への適応を図るための日本語初期指導を実施した。給食の時間以後は、学校生活にも慣れるよう在籍校において指導を行った。

日本語初期指導教室と学校は、児童生徒の学習状況等について連絡調整をし、当該児童生徒が学校生活に円滑に順応できるための連携を行った。

(2) 日本語初期指導教室の開設状況

ア 受入れ人数

30年度は10校から50人(延べ51人)の児童生徒を受け入れた。

国籍は、ブラジル、ペルー、フィリピン、ベトナム、中国、インドネシア、アルゼンチンの7ヶ国で、前年は6ヶ国、前前年は、4ヶ国であり、児童の増加とともに多国籍化が急速に進んでいる。

(ア) 1学期 5校

新川小学校、棚尾小学校、中央中学校、南中学校、西端中学校
(小学生7人、中学生6人)

(イ) 2学期 6校

新川小学校、中央小学校、棚尾小学校、新川中学校、中央中学校、東中学校
(小学生16人、中学生8人)

(ウ) 3学期 5校

棚尾小学校、鷺塚小学校、西端小学校、新川中学校、南中学校
(小学生10人、中学生4人)

イ 開設場所

1学期 新川・棚尾児童クラブ、2学期 新川・中央児童クラブ、3学期 鷺塚児童クラブ

(ア) 保護者の送迎が見込めない場合等を考慮し、支援対象となる児童生徒の住所地に近い児童ク

ラブでの開設を基本として、適宜決定した。
 (イ) 外国籍児童生徒の増加に伴い、1・2学期は2教室開催とした。

- ウ 開設時間
1 時限目から給食の時間前まで
- エ 児童生徒 1 人あたりの指導期間
4時間／日×60日（3ヶ月程度、上限240時間）
- オ 指導者
NPO法人プラス・エデュケート(委託)
- カ 指導体制
日本語教育支援員2名が中心となり、支援員補助者と指導
- キ 支援員活動時間
日本語教育支援員 週5日、1日5時間程度
支援員補助者 週2～5日、1日4時間程度

- (3) 日本語初期指導教室指導員の研修
 日本語教育支援員が経験の乏しい支援員補助者と一緒に児童生徒への指導を行う中で、日本語初期指導についての指導・研修を行い、支援員補助者のスキルアップを図った。

5 達成度を測る指標

指 標	初期指導教室受入児童生徒数				
指標の説明	目標値は、1 学期時点の初期指導教室が必要と思われる児童生徒数。 実績値は、1 学期の教室に実際に通った児童生徒数。 年度合計は、1 年間に通った児童生徒の延べ人数（括弧内は実人数）及び開設教室数。				
年 度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
目標値	19	28	26	33	－
実績値	18	12	13	21	－
年度合計	32 (30) 3 教室	39 (38) 4 教室	51 (50) 5 教室	() 5 教室	－

6 取り組みの成果【C】

(1) 全体

小学生中学生ともに、日本語指導を受けたことで、言葉の壁が低くなり、学校不適應の解消、学習意欲の向上につながった。日本語初期指導教室に通う前は、言葉を発しなかった子どもが、指導後、学校に戻って日本語で先生に質問できるようになり、友だちにも話しかけられるようになったり、日本語のレベルが上がったことにより、日常会話で困らないレベルになったりした。学校からは、今のところ、どの子どもも毎日学校に通っていると聞いている。

各学校の日本語教育担当、学級担任や、校長等が教室を見学し、子どもがどのように日本語を身に付けていくのかの理解も深まった。また在籍校と連携して、日本語教室でキャッチした情報をもとに学校での対策を考えることができた。また、学校での様子を初期指導教室に連絡することで、子どもにとってよりよい指導ができた。

その他の成果として、子どもと密に接する環境であるので、子どもの個性をより詳しく把握できることから、発達の問題や生活環境の問題などをもつ子どもを見つけることができた。さらに、その家庭に対して理解をいただくよう、情報を共有することで、児童生徒の学習・生活状況の改善につなげることもできた。

また、令和元年度より、初期指導が必要な児童生徒をより正確に把握することと、初期指導教室の成果を

把握することを目的として、DLAの語彙テストを通室希望者に事前・事後の2回実施することにし、各校に周知した。

(2) 日本語初期指導教室指導員の研修

支援員補助者への研修によって、以下の点が理解されスキルアップされた。

ア 子どもへ声のかけ方

イ 子どもの背景にある国の文化や事情、考え方

ウ 日本語指導の手順・教え方

エ 指導に用いる日本語のコントロール(学習している言葉と学習していない言葉の使い分け)

支援員補助者の入れ替わりがあったため、指導方法の共有を第一課題として研修を実施した。指導経験の少なさからくる戸惑いが多く見られたため、その日にあった具体的な場面での振り返りを研修とし、その積み重ねを心がけるようにした。児童生徒が学校に戻ったあとの時間を充てるようにした。

7 残されている課題【C】

(1) 小学校に隣接する児童クラブを会場としたことは、安全面ではよかったが、開催地から離れた地域の学校に在籍し、保護者による送迎ができない場合は、参加できなかった。そのため、開催教室数の5教室を、より多くの地域をカバーできるよう配慮した。しかし、それでも親の送迎ができず通うことができない児童生徒があった。これは、碧南市の外国人児童生徒が、どこかの地区に固まっているのではなく、市全域に分散しているという傾向があることも影響している。

(2) 今年度、当初予定していた児童生徒数を大幅にオーバーしたが、次年度以降も、指導を必要とする児童生徒が増えることが見込まれる。開催教室数を増やしたいと考えているが、指導者および指導補助者の人材確保の問題があるため、なかなか実行できない。

また、1教室の定員を増やし続けている現状があるが、それに応じて教室運営が難しくなりがちであることが懸念される。

(3) 教室数を増やすことで、指導補助員の先生方の確保が厳しくなった。また、週に1・2日の頻度で指導に入っているため、指導方針の徹底、指導内容の共有、指導事項の受け渡しなど、指導について連携を保つために留意しなければいけない点が増加している。

8 外部評価者の評価【C】

近年、多くの国々から、日本語の理解が十分でないまま来日し、日常の生活や学校生活に適應できない外国籍の子ども（児童生徒）が増加している。

そうした状況の中で、平成28年度から、学校外で、来日直後の児童生徒に、日本語初期指導教室を開設し、彼らが日本での生活や学校生活にうまく適應し、よりよく生きられるように支援している。

平成30年度は、前年度の点検評価を踏まえ、開設場所や時期などに配慮し、教室を1教室増やし、5教室開設し、50人（述べ51人）を受け入れている。

日本語初期指導教室は、指導実績のあるNPO法人に委託し、就学直後の3ヶ月程度（1日4時間、上限240時間）、在籍校の1時限目から給食の時間までの間、児童生徒の実態などを踏まえて、必要な指導支援を実施している。

この日本語の初期指導後、子どもたちは、言葉の壁が低くなり、自分の考えや思いを教師や友達にも少しずつ話せるようになり、学校生活への適應などの面から、所期の成果を上げている。

なお、これからも受け入れ児童生徒の数の増加が見込まれ、開設教室の数や時期、場所の選定の問題をはじめ、指導員の確保や支援員補助への研修の問題などを検討し、日本語初期指導教室の一

層の改善充実を図っていくことが望まれる。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

市全体としては日本語教育を必要とする児童生徒の流入は続き増加が見込まれている。また、散在化が顕著になってきているため、他学区で初期指導教室が開催される場合、小学生は保護者送迎を条件にしているため、年5教室実施されても通えないというケースが出てしまっている。

令和2年度は1教室増やし、毎学期2教室を開催することにより、より多くの児童生徒に学習の機会を与えることができるようにしたいと考える。

また、受け入れ人数が増えれば、支援補助員のやりくりに苦慮してしまう事態が予想される。人員の入れ替えもあるため、人材確保は課題として残るが、週に複数日を指導に入っていただく支援補助員を多くすることで、シフトを安定化させたい。また、複数日入っていただくことで、生徒の成果や変化を継続的に見られるので、的確な指導による教育効果が期待できる。加えて、研修のあり方を工夫することにより、児童生徒に還元されるようにしたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	2. 学校給食への地場産物の活用の推進	所属課	庶務課（学校給食センター）
-------	---------------------	-----	---------------

1 総合計画での位置づけ

第4章第1節2 生きる力を育む義務教育の充実 ③こどもの健康づくりの推進

2 事業の目的・理由【P】

目的
地場産物を使用した給食実施に努め、学校給食を通して、地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めるとともに、生産者の努力や食に関する感謝の気持ちを育む。
評価対象とした理由
第3次碧南市食育推進計画においても地産地消の推進が位置付けられており、着実な進展が求められている。また、教育の範囲に限らず、地元経済の振興や環境負荷の低減などにも関わる課題であり、関係機関との連携を図りながら取り組んでいく必要があるため。

3 事業費

29 年度決算額	30 年度決算額	元年度予算額
336,645 千円	337,080 千円	349,501 千円
10 款 6 項 6 目 5-3（賄材料調達事業） 賄材料調達事業の支出内容はごはん、牛乳、おかず等、給食食材の購入費。		

4 取り組みの内容【D】

賄材料調達事業の中で、地場産物の活用について、下記のソフト事業に取り組んだ。 (1) 地場産物を使用した給食の実施 ア 野菜等青果物は、積極的に碧南産・県内産を使用した。 イ 味噌等調味料は、碧南産を指示して入札した。 ウ 農業水産課から提供を受けた碧南産農産物の資料を参考に献立を作成した。 エ 地元のにんじんを使った「にんじん蒸しパン」、赤しそを使った「赤しそふりかけ」を新献立として取り入れた。 (2) 食育の推進 ア 「食育だより」（年間6回）を児童生徒、保護者に配布し、地元産の食材を使用した献立を紹介するとともに、食事のマナー、碧南かき揚げのレシピ、食生活のポイント、食べ物の旬、地産地消、クッキングコンテストを紹介した。 イ 「愛知の新たなまねぎの日」（4月13日）、「碧南人参の日」（1月23日）として、生産者から寄贈されたたまねぎ、にんじんを給食に使用し、献立表等で紹介した。 ウ 小学校5・6年生を対象に碧南産の食材を使用した朝ごはんのクッキングコンテストを実施し、最優秀作品を「食育だより」に掲載した。また、本選出場者の参加賞として、地産地消推進協議会より提供いただいた野菜のもぎ取り券（あおいパーク）及びたまねぎスープを渡した。なお、応募者全員に参加賞として、野菜の種を渡した。

5 達成度を測る指標

指 標	第3次碧南市食育推進計画に記載の学校給食における地元の農産物（野菜）の使用割合（碧南産・県内産）
指標の説明	学校給食に使用した農産物（野菜）全体に対する碧南産・県内産の重量ベースによる使用割合。 平成33年度目標として、碧南産30%、県内産60%を目標としている。

年 度	29 年度 (%)		30 年度 (%)		元年度 (%)		3 年度 (%)	
生産別	市内	県内	市内	県内	市内	県内	市内	県内
目標値	30.0	60.0	30.0	60.0	30.0	60.0	30.0	60.0
実績値	17.7	45.3	12.2	37.7	-	-	-	-

6 取り組みの成果【C】

(1) 地場産物を使用した給食の実施

ア 給食に使用した農産物の率は、県内産 37.7% で前年度を下回った。市内産は 12.2% で同じく前年度を下回った。天候不順等により県内産の価格が高く、県外産を選択せざるを得なかった等によるものと考えている。

イ 調味料は、白しょうゆ、白だし、赤味噌、ミックス味噌、ソース、酒、味醂において、碧南産を指示して入札した結果、市内事業所が製造したものを使用することができた。

ウ 農業水産課との連携により、碧南産農産物の給食への効率的な使用ができた。また、引き続き碧南産食材であるにんじん等の給食使用を実施することができた。

エ 地元のにんじんを使った「にんじん蒸しパン」、赤しそを使った「赤しそふりかけ」を新献立として取り入れることができた。

(2) 食育の推進

ア 地元産食材や和食文化を「食育だより」で紹介することで、地元農水産物や伝統文化に関する知識を深められた。

イ 生産者から寄贈された野菜を使用し、「新たまねぎの和風ソテー」及び「へきなんにんじんかきあげ」の献立を通して、児童生徒に生産者を身近に感じさせることができた。

ウ クッキングコンテストの応募数は、7校 889 点の応募があり、昨年度の 678 点から 211 点増加し、碧南産食材の品目や料理の理解につながった。また、コンテストの本選には、保護者が同伴し、広報に掲載したことにより、広く情報が伝わった。

7 残されている課題【C】

碧南産食材（にんじん、たまねぎ及び赤しそ等）の給食への使用を研究していく。地場産物を使用した給食の実施や食育の推進内容を農業水産課と協働し、児童生徒だけでなく、一般市民まで広がる活動への発展を継続する必要がある。

天候不順等により県内産の価格が高く、県外産を選択せざるを得ない場面が続く場合等により、地元の農産物（野菜）の使用割合（碧南産・県内産）を目標値に近づけるためのよい方法がないか検討していく必要がある。

8 外部評価者の評価【C】

学校給食センターは、「地産地消を推進し、安心して食べることができる給食の提供に努め」る一方、「地域との協力・連携による食育への取組」（碧南市総合計画）や健康づくりの推進に寄与しようとしている。

「地産地消」を推進するため、学校給食センターは、関係の部署や地元の生産者・団体との連携をより強化し、新鮮で安心して食べられる農産物の確保・提供に努めている。

また、栄養面でのバランスに配慮しつつ、美味しく食べることができる地場産物を使用した献立を工夫し、給食づくりに努めている。

また、日々、衛生管理に努めるとともに、「食育だより」を年 6 回発行し、地元産の食材を使用した献立を紹介したり、食事について正しい理解や食料の生産、流通及び消費についての理解が深まるように指導し、学校給食を通じて、子どもの健康づくりの推進を図っている。

小学校 5・6 年生を対象に碧南産の食材を使用した朝ごはんのクッキングコンテストなどを実

施し、碧南産農産物の品目や調理への関心の高揚・理解に繋げている。

なお、学校給食に使用する碧南産農産物の全体に占める割合（実績値）は、平成２９年度は１７．７％であったが、平成３０年度は１２．２％と減少し、目標値の３０．０％を下回っているが、農産物の価格は天候などに関係しており、限られた予算の中で、これからも地産地消を推進し、目標の達成に努めたい。

９ 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

碧南市総合計画及び第３次碧南市食育推進計画に定めた目標を達成すべく、今後とも関係の部署や地域の生産者等との連携を今まで以上に図り、地場産物を活用した給食の実施に努めていく。

学校給食に使用する碧南産農産物の全体に占める割合（実績値）は、栄養バランスを踏まえる中、献立の工夫等できる限り改善へ努力していく。

食材の旬や地元生産物の啓蒙等を食育だよりやクッキングコンテスト等を通じて、児童生徒への食育活動を継続的に実施する。

また、新メニューも含め児童生徒に楽しんで学校給食を食べてもらえる献立づくりを心掛ける。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	3. 学校施設の耐震化・老朽化対策	所属課	庶務課
-------	-------------------	-----	-----

1 総合計画での位置づけ

第4章第1節2 生きる力を育む義務教育の充実 ④学校施設の整備・充実

2 事業の目的・理由【P】

目的

非構造部材も含めた耐震対策を進め、地震発生時における児童生徒の安全を確保する。加えて、老朽化した施設を計画的に修繕し、児童生徒の安全面、施設の機能面の改善を図る。

評価対象とした理由

学校施設の耐震化・老朽化対策を早期に確実な方法で進める必要があり、計画的・効果的な事業実施を図るため。

3 事業費

29 年度決算額	30 年度決算額	元年度予算額
139,406 千円 内改築 0 千円	82,703 千円 内改築 0 千円	136,982 千円 内改築 0 千円

4 取り組みの内容【D】

小学校・中学校施設老朽化対策事業

(1) 学校施設健全度調査（小・中学校分）（事業費 4,585,600 円）

中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、学校施設に求められる機能・性能を確保し長寿命化をすすめる計画を策定するため、構造体の健全度を調査した。（平成29年度～30年度）

(2) 新川小学校アスベスト含有調査（事業費 347,760 円）

新川小学校校舎（南館）と体育館外壁にアスベストが含有されていないか確認する必要があったため調査を行った。

(3) 東中学校校舎外壁等改修工事（事業費 77,769,720 円）

老朽化により塗装劣化、クラック等が生じている東中学校校舎外壁の改修工事を行った。

5 達成度を測る指標

指 標	学校施設老朽化対策率				
指標の説明	小中学校校舎で老朽化の進んでいる棟数のうち、外壁改修済みの建物の棟数の割合				
年 度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
目標値	58.3%	66.7%	91.6%	100.0%	100.0%
実績値	50.0%	66.7%	75.0%	—	

6 取り組みの成果【C】

小学校・中学校施設老朽化対策事業

(1) 学校施設健全度調査（小・中学校分）

調査を行うことにより、個別施設計画の策定を有効に進めることができると共に、今後の工事を効率的に行うことができる。30年度は20年度目。

(2) 新川小学校アスベスト含有調査

調査により、今後の体育館外壁改修等の工事を効率的に行うことができる。

(3) 東中学校校舎外壁等改修工事

外壁改修工事の完了により、外壁が剥がれ落ち、生徒に当たる危険性がなくなった。さらに建物の長寿命化が図られた。

7 残されている課題【C】

(1) 平成 30 年度においては、ブロック塀の倒壊や猛暑により児童の尊い命が奪われたことで、急遽それに対する対策や施設整備を優先的に行う必要があった。また当初予算化されていた西端小学校と鷺塚小学校の校舎外壁等改修工事の国庫補助の当初内定が認められず、年度末に追加にて補助事業に採択された。このため次年度に工事が繰越して行われることになり、事業が計画的に進まずに目標値に近づくことができなかった。令和元年度は繰越された校舎外壁改修を進めていき、施設の老朽化対策に努めていく必要がある。

(2) 今後は体育館、武道場の防水・外壁改修工事を進め、これらの老朽化対策工事と合わせて、学習環境整備（内装改修、トイレ改修等）を計画的に進める必要がある。

(3) 学校施設の老朽化対策には多額の費用がかかることから、国庫補助対象事業となっているが、碧南市の限られた予算の中で学校施設改修に採択される事業は一部であり、毎年財源の確保が課題となっている。

8 外部評価者の評価【C】

児童生徒が安全・良好な教育環境の下で生活できるように学校施設の老朽化対策を推進していくことが求められている。

学校施設の耐震化については、平成 27 年度に、南中学校校舎改築事業が計画どおり完了し、本市の学校施設の耐震化率は 100%となっている。しかしながら、施設の老朽化が進んでいる建物の改修工事については、外壁改修済みの建物の棟数の割合は平成 30 年度で 75.0%となっており、厳しい財政事情の中ではあるが、令和元年度までに老朽化対策事業を計画的に行い、100%の目標が達成されるように努めたい。

そして、児童生徒が安全・良好な教育環境の中で、学校生活を送り、生きる力をはぐくんでいくことができるように学校施設の整備・充実を一層図っていく必要があろう。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

今年度中には校舎外壁改修の完了を目標とし、今後は、学校施設の日常的な維持管理に加え、計画的に大規模な老朽化対策を進めていく。令和 2 年度までに学校施設の長寿命化、トータルコストの縮減、コストの平準化を踏まえた、より具体的な個別施設計画を策定し、策定後はこれに基づいて事業を実施し、学校施設の長寿命化とともに、児童生徒の安全確保、快適な学習環境の向上を図っていく。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	4.学ばまい生涯学習	所属課	生涯学習課
-------	------------	-----	-------

1 総合計画での位置づけ

第4章第1節3 生涯を通じて学び続ける学習環境の充実 ②学習機会の拡充

2 事業の目的・理由【P】

目的

特定の分野に関して時間をかけて学習・体験し、自分の好きなこと、興味を持ったことを追求していくような学習機会と成果発表の場を提供することを目的とする。

また、受講者同士の交流を深め、講座終了後の活動（サークルの発足）につなげることを目指す。

評価対象とした理由

平成28年度から始まった新規事業のため、継続して内容の精査を行い、目的に沿った事業とする必要があるため。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	元年度予算額
215 千円	119 千円	130 千円

4 取り組みの内容【D】

【学ばまい生涯学習事業】

期 間 平成30年6月22日（金）～ 11月16日（金） 全11回

※6月22日（金）及び11月16日（金）は2講座合同で開閉講式及び成果発表会

(1) ペン習字（ボールペン）コース

ア 内 容 字のコツを覚え、美文字をめざして楽しく練習をする。

イ 練習日 平成30年6月26日（火）～10月16日（火）までの隔週火曜日

※10月の1週目のみ2日（水）に開講

ウ 定 員 15名

エ 受講者 17名

オ 受講料 1,000円

カ 材料費 400円（ボールペン・替え芯・下敷き代金）

キ 講 師 雄鳳書院 朴書会 石川 博恵

ク 成果発表 11月2日（金）～4日（日）第70回碧南市文化祭作品展示

11月16日（金）感想発表

(2) 野菜が楽しくなるヤサイ学コース

ア 内 容 野菜や果物の特徴・旬・調理・保存・栄養、そして安全と安心・・・など幅広く野菜のことを学ぶ。

イ 実習日 平成30年6月28日（木）～11月8日（木）までの隔週木曜日

ウ 定 員 10名

エ 受講者 7名

オ 受講料 1,000円

カ 材料費 6,000円（野菜代）

キ 講 師 日本野菜ソムリエ協会認定 野菜ソムリエ上級プロ 永井 千春

ク 成果発表 11月8日（木）ヤサイでまんぷく 秋の収穫祭開催

11月16日（金）感想発表

※各施設にポスターを掲示・申込書を配布、広報、ホームページに掲載してPRした。

5 達成度を測る指標

指 標	定員数に対する受講者数				
指標の説明	ペン習字（ボールペン）コースとヤサイ学コース合計25名の定員数に対する受講者の割合。				
年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
目標値	100%	100%	100%	100%	100%
実績値	65% 歴史：3名 琴：10名	125% 琴：10名 ペン習字：15名	96% ペン習字：17名 ヤサイ学：7名	—	—

6 取り組みの成果【C】

(1) ペン習字（ボールペン）コース

昨年度好評であったため継続して開講したが「前回定員となり受講できなかったのも、今回参加できて良かった」「前回見ていて参加したいと思った」など、すでに人気の講座となっており、その注目度も高かった。また、受講後も「参加して良かった」「意味ある教室であった」などの感想がほとんどであり、講座を通じ生涯学習のきっかけづくりに繋がった。

(2) 野菜が楽しくなるヤサイ学コース

初開催の講座であり、あまり他市にはない内容であったが、「苦手を克服したい、生涯学習を必要と感じていた」「野菜購入、試作ととても大変だったが楽しかった」「とても良い取組です。これからも継続を望みます」等の感想が寄せられた。成果発表の一環として、受講生が地元産の食材を使ったレシピを自ら考案し、調理して食べる、「ヤサイでまんぷく 秋の収穫祭」を実施し、当日は、ケーブルテレビ KATCH の取材があり、収穫祭の様子についてニュース番組 KATCH TIME 30 で放送された。難しいテーマに対し、楽しく学べるようにしたことにより、意欲的に取り組みやすく受講者の高い満足度に繋がった。

7 残されている課題【C】

日時が平日の午前中であるため、受講者が女性や高齢者に偏る傾向がある。土日の開講や内容を精査し、男性や子どもまで幅広い年代の方が受講しやすいよう検討していく必要がある。

8 外部評価者の評価【C】

総合計画には、「人々が活気にあふれ、互いに学び合い生涯を通じて学びつづけ、一人ひとりが社会において、その能力を発揮できるまちづくり、学社融合及び次世代の育成を目指したまちづくり」の推進がうたわれており、そのために「生涯学習推進体制の強化」や「学習機会の拡充」などが求められている。

「学ばまい生涯学習」事業は、生涯を通じて学び続ける学習環境や学習の場を整備し、一人ひとりに「生涯学習活動による自己実現を図り、生きがいや新しい価値観を発見してもらうための」学習の機会や成果発表の場を提供するもので、「ペン習字（ボールペン）コース」と「野菜が楽しくなるヤサイ学コース」の二つのコースが開設。「ペン習字（ボールペン）コース」は、前年度に引き続き開設され、受講者は定員を上回って実施されている。

コースの開設などに当っては、市民が、どのようなことに関心を持ち、生涯を通じて、どのよう

なことを学びたいと願っているか等、アンケート調査や聞き取り調査などをして、把握するように努め、PRに努めることも必要である。また、他の講座・教室とも連携を強め、一人でも多くの市民の理解と参加が望まれる。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

「学ばまい生涯学習」事業は平成30年度で3年目となるが、講座内容にもよるものの軒並み好評価をいただいております、受講者も定員を上回るなど順調ではあるものの、受講者が女性や高齢者に偏るなどの問題点もある。これについては、開講日が平日の日中であることや、ヤサイ学や琴など、比較的女性向きの講座が多いことも原因のひとつであると思われる。今後はアンケートや公民館の文化講座などから情報収集を行い、なるべく幅広い層が受講できるよう、内容を精査すると共に、幅広いニーズに応えることができるよう、開講日や開講時間なども見直しを行い、市民にとって、生涯学習のきっかけとなるような講座としたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	5.スポーツ活動の推進及び日常化	所属課	スポーツ課
-------	------------------	-----	-------

1 総合計画での位置づけ

第4章第1節4 多くの市民が参加するスポーツの振興 ①スポーツ振興体制の強化

2 事業の目的・理由【P】

目的
市民が主体的、継続的にスポーツに親しみ、意識的な健康づくりに取り組めることを目的とする。
評価対象とした理由
平成23年度から参加している「チャレンジデー」を引き続き実施し、住民の参加率を上げることで、スポーツ（運動）の継続的な実施へつなげることができる。また、住民がスポーツに参加する機会となり日々の運動のきっかけとするため、様々な種目のスポーツ教室を委託実施するとともに、各地区から選出しているスポーツ推進委員を育成及び活用することで、スポーツ推進計画（平成26年度策定）における、市民の週一回スポーツ実施率60%を達成できるようにする。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	元年度予算額
(1) 132 千円	(1) 151 千円	(1) 200 千円
(2) 11,100 千円	(2) 10,869 千円	(2) 12,500 千円
(3) 2,384 千円	(3) 3,165 千円	(3) 2,385 千円

4 取り組みの内容【D】

(1) 「チャレンジデー」平成30年5月30日（水）開催 ア チャレンジデーの概要 毎年5月の最終水曜日に全国で一斉実施し、人口規模の近い自治体同士で運動参加率を競う住民総参加型スポーツイベントである。勝負に負けた自治体は、相手自治体の旗を本庁舎メインホールに一週間掲揚する。 イ 碧南市の取り組み 事前に市の広報、新聞、マスコミへのPRや市役所、臨海体育館にPRコーナーを設置するなどの情報発信をして参加を促すため、普段運動しない人が気軽に参加できる環境づくりとして、各種競技団体（計30団体）へ独自のイベント開催を依頼し、実施して頂いている。 (2) スポーツ教室開催事業（前期・後期） ア 市スポーツ教室の概要 初心者向けの各種スポーツ教室を開催している。参加しやすいように、昼間・夜間・子供と部門分けして実施している。会場は臨海体育館をはじめ屋外テニスコート、市民プラザ、小学校の体育館、民間プールなど様々な場所で実施。 イ 近年の状況 平成27年度より『へきなん総合型スポーツクラブ』に委託して実施。 (3) スポーツ推進委員会運営事業（通年） ア スポーツ推進委員会の概要 市内7地区から選出、総勢30名（男性15名、女性15名）で、市民がスポーツに参加できる機会を支援するため、推進委員が各種事業（イベント）を主催している。また、推進委員を対象に各種研修会を実施。
--

5 達成度を測る指標

指 標	「チャレンジデー」住民の参加率				
指標の説明	当日の午前0時から午後9時までの間に、15分以上継続して何らかの運動やスポーツをした人の割合（注）スポーツ推進計画では目標値を60%とした。				
年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
目標値	60%	60%	60%	60%	60%
実績値	74.1% 53,193人	94.6% 68,245人	81.9% 59,423人	—	

6 取り組みの成果【C】

(1) 「チャレンジデー」の開催

企業への直接PR以外にも、ロータリークラブやライオンズクラブの会議の場を通じてPRしたほか、臨海部・内陸部への企業を中心に直接電話などでPRを行った。当日は雨天のため、参加率、参加者数は前年より減少したが、それにも係わらず多くの方に参加頂いた。

【平成30年度新たな取り組み】

ア イベントによる話題づくり

市の新施設である碧南緑地ビーチコートにおいてビーチバレー・ビーチサッカーの体験会を企画した（当日は雨天により中止）。また、元プロ野球オリックスバファローズ福留宏紀氏を招聘し、野球イベントを実施した。

イ 事業PRによる市民参加の促進

これまで行ってきた臨海部企業に加え、内陸部企業へのPRを行った。また、事業PR用懸垂幕（市役所前）と横断幕（臨海体育館）を設置した。

(2) スポーツ教室の開催

昼間の部（5教室）延べ279人参加 夜間の部（5教室）延べ226人参加

子供の部（10教室）延べ593人参加 3部門計・112名の減少となった。

へきなん総合型スポーツクラブのこれまでのノウハウを活かし、市主催教室と総合型主催教室を一体的に実施することにより、それぞれの教室の特徴を明確化して実施するよう努めている。具体的には、市の教室は基礎的なスポーツ種目とし、総合型は、スラックライン、スケートボード、スポーツウエルネス吹矢などの新しいスポーツや特色あるスポーツの教室を実施している。

(3) スポーツ推進委員会の運営

研修会：県内3回、県外2回を実施

主な参加事業：元気ッス！キッズ運動教室、チャレンジデー、市民体力テスト、へきなんマラソン、やろまいペタボード碧南大会、ディスクドッジ大会 in へきなん、市民駅伝大会など

【近年の取り組み】

ペタボードやディスクドッジの大会を主催するとともに、新施設である碧南緑地ビーチコートでの独自ルール（6人制）によるビーチバレーボールの普及にも取り組む。

7 残されている課題【C】

(1) チャレンジデーについては8回目の参加であり、市民への認知度は高まってきている。市民の継続的なスポーツ実施率の向上を目的に実施しており、市政アンケートの結果からも市民の週1回以上スポーツ実施率の若干ではあるが向上がみられている。

(2) スポーツ教室については、平成27年度からスポーツクラブに全面委託して実施をしており、魅力ある教室になるよう努力を続けている。ただし、指導者が不足しているという根本的な問題を抱えている。

(3) スポーツ推進委員については、各地区から選出されており、市民へスポーツ活動の普及推進をすることに大きく寄与している。但し、活動内容が固定化されているため、ビーチバレーボールの普及などニーズに合わせた新たな事業の発掘・研究に力を入れる必要がある。

8 外部評価者の評価【C】

本市は、昭和63年に「健康都市宣言」をし、以来、「市民の健康づくりやスポーツ環境の整備」に取り組むとともに、「スポーツがより身近になるよう、提供体制や参加・協力体制の整備」にも努めている（総合計画参照）。

そうした状況の中で、平成23年度から毎年5月に全国で一斉に実施されている「チャレンジデー」では、事前にその意義や目的などを広報誌や新聞、マスコミ等を通じて、情報発信に努め、市民に参加を促している。平成30年度の「チャレンジデー」の住民参加率は、雨天にもかかわらず実績値で81.9%に達し、目標値の60%を上回って成果をあげている。

また、住民がスポーツに参加する機会となり、日々の運動のきっかけとなるように各種スポーツ教室を昼間・夜間・子ども向けに分けて実施しているが、教室の参加者は、平成30年度については、昼間の部5教室、夜間の部6教室、子どもの部10教室を合わせて112人の減となっている。教室の指導者の不足などが懸念されており、スポーツ推進委員との連携を図りながら、事業運営の在り方を検討する必要がある。

スポーツ推進委員を対象とした研修会を県内外で実施し、その理解と協力支援の下で、一人でも多くの市民が、各種スポーツに親しみ、日常の生活の中で、継続して健康づくりに取り組めるような環境、振興体制の強化が引き続き求められる。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

スポーツ推進計画に掲げるスポーツ実施率60%の達成には、まだ日常的に運動をしていない市民が、体を動かすきっかけが不可欠である。さまざまな年代・興味関心・体力・技術に合った魅力ある場を提供していきたい。

一方で、趣味の多様化や少子化といった影響もあり、ご指摘のとおりスポーツ教室への参加者が減少している実態がある。また、スポーツ関連各種団体も、会員数の減少や指導者不足といった問題を抱えている。碧南市全体のスポーツ人口の増加には、スポーツ関連各種団体の相互連携による裾野拡大に向けた各種取り組みもある。将来にわたっての好循環（指導者育成⇒子どもの育成⇒競技者⇒指導者）が生まれるよう、市、スポーツ関連各種団体の一層の協力関係を築いていく。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	6. 無我苑自主事業	所属課	文化財課（無我苑）
-------	------------	-----	-----------

1 総合計画での位置づけ

第4章第2節1 芸術文化の振興 ②自主運営事業の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
全国的にも珍しい、哲学をテーマにした施設であり、その施設のよさを周知し、市民に豊かな芸術文化を提供する。
評価対象とした理由
施設の設置目的である市民の心の健康及び精神文化の醸成並びに文化交流の推進を図るため。

3 事業費

29 年度決算額	30 年度決算額	元年度予算額
6,008 千円	6,089 千円	7,386 千円

4 取り組みの内容【D】

自主事業

	実施時期	定員	参加者（延べ）	参加率
トークイベント「三河大浜土人形あれこれ」	4 月 21 日	30 人	76 人	100.0%
春の野外コンサート	5 月 19 日	80 人	82 人	100.0%
前期哲学講座	6 月 2 回講座	20 人	20 人（38 人）	100.0%
ハスワーク	7 月 6 日	15 人	11 人	73.3%
初めての琴教室	7 月 4 回講座	15 人	8 人（24 人）	53.3%
納涼落語	8 月 4 日	60 人	62 人	100.0%
透ける糸かけ曼荼羅教室	8 月 2 回講座	16 人	13 人（23 人）	81.3%
切り絵ワークショップ（こども）	8 月 2 回講座	16 人	8 人	50.0%
切り絵ワークショップ（おとな）	9 月 2 回講座	16 人	16 人	100.0%
陰陽糸かけ曼荼羅教室	9 月 2 回講座	16 人	14 人（28 人）	87.5%
観月の会	9 月 22 日	100 人	101 人	100.0%
後期哲学講座	10 月 2 回講座	20 人	20 人（33 人）	100.0%
ローズウィンドウ教室	10 月 10 日	15 人	15 人	100.0%
和の作法教室	11 月 2 回講座	15 人	9 人（16 人）	60.0%
新春コンサート	1 月 5 日	120 人	120 人	100.0%
糸かけ曼荼羅アート	1 月 13 日	16 人	16 人	100.0%
碧南の偉人を学ぶVI	1 月 2 回講座	15 人	11 人（22 人）	73.3%
香道教室	2 月 24 日	30 人	30 人	100.0%
茶の湯文化講座	3 月 3 日	60 人	61 人	100.0%
		675 人	693 人	97.4%
市制 70 周年記念茶会	濃茶席	150 服	売上額 319600 円	
	薄茶席	282 服		
	煎茶席	226 服		

5 達成度を測る指標

指 標	自主事業参加率				
指標の説明	講座等の定員に対する参加者の割合				
年 度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
目標値	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
実績値	94.1%	98.0%	97.4%	—	

6 取り組みの成果【C】

平成 30 年度は例年行っている一部の講座やコンサートに、受講者や観客が参加できるような趣向を取り入れたところ大変好評であった。

また、人気講座の定員や募集する際に村民登録者優先制度を取り入れた募集方法をするなどした結果、村民登録者が増加した。

(1) コンサート

春のコンサートは「中世ヨーロッパ音の風景」という題名で、普段聞く機会の少ない珍しい楽器に親しみ、春を感じる音楽を、観月の会は月を眺めながら秋の夜をしっかりと楽しめるオカリナ・チェロ・ピアノの演奏を、新春コンサートは、和太鼓演奏により正月らしい雰囲気を楽しむことができるように心がけた。特に新春コンサートは、演奏の間に和太鼓演奏を体験するワークショップを開催し、観客と演奏者が一体となって楽しめたという声が多く聞けた。

(2) 教室、講座

ア 作品鑑賞とは違う視点で展示作品や作家を感じてもらいたいという意図から、瞑想回廊で行った「切り絵展」の作家を講師に迎え、展示作品を眺めながら切り絵体験をするワークショップを開催した。多くの人が参加を希望したため、追加開催も行うほど盛況であり、参加者からは鑑賞のみでは感じられないものを感じることができたと感じていただくことができた。

イ 哲学講座を受講型から参加型に転換したところ、問合せが増加し、参加者の年齢層の幅が広がった。

また、SNS を利用した宣伝により、市内在住者だけでなく、名古屋市や豊橋市など市外在住者の参加者が増加した。

ウ 瞑想回廊の展示は 1 回の展示期間が 2 ～ 3 ヶ月と長い。会期中に何度も足を運んで頂くためには作品展に変化が必要と考え、陶芸作家の作品展では、作品を利用した生け花のデモンストレーションを開催した。その結果、デモンストレーション後の作品を目当てに観覧者が増加した。

エ 市制 70 周年記念茶会の際に、日本に二つしかない露地囲いを利用した濃茶席を設けたところ、普段開催している涛々庵茶会より本格的な茶会を体験できると、市内外より多くのお客様に来苑いただくことができた。

7 残されている課題【C】

(1) 講座等の開催について

村民アンケートを実施した結果、男性村民から「土曜開催の講座があると参加できる」「男性限定の講座の開催」などの要望があった。また、哲学講座の充実を希望する声が大半を占めた。

今後も村民アンケートを毎年実施し、ニーズに応じた講座開催の検討が必要である。

(2) 哲学講座

昨年度後期哲学講座を受講型講座から参加型講座に転換したところ、定員を超える申込みがあり、哲学対話に対する反応の良さを感じた。

村民アンケートからも哲学講座の人気の高さが伺え、哲学をテーマにした施設として、より一層哲学講座の充実を図る必要がある。

(3) 施設の維持

開苑から 25 年以上経過し、全体的に老朽化してきている。

特に、市民茶室涛々庵と露地囲いは、茶室・数奇屋建築研究の第一人者である故中村昌生氏が手がけた後世に残したい建築物であるが、予算の制約があるため、空調の故障、池の漏水など緊急性の高いものを最優先しており、修復すべきものが多く残っている。

8 外部評価者の評価【C】

碧南市哲学たいけん村無我苑は、総合計画によれば、「全国的にも例のない哲学をテーマにした施設」で、無我苑では、「哲学的なたいけん」をすることによって、「生きていく意味を考え」たり、「心の健康と精神文化」が醸成されるよう、いろいろ創意工夫を凝らしながら自主事業を運営している。

本年度も、前年度に引き続き、「哲学講座」をはじめ、日本の伝統文化を中心に講座・教室やコンサートが企画実施されている。

「初めての琴教室」や「和の作法教室」などでは、参加者が定員に達しないものもあったが、教室・講座の参加者の募集方法を工夫し、内容を時勢に合致したものに改めた結果、新規村民登録者の獲得や若年層の参加者の増加が見られ、また内容的にも好評であった。

これからも市民の多様なニーズに応え、全国的にも珍しい施設での「哲学的なたいけん」を通して、「健康と精神文化」の醸成が図られるように、学校や関係団体・機関、専門家などと連携し、質の高い「魅力ある事業」を展開していくことが望まれる。

なお、本年度は、市制 70 周年を記念して茶会が開催され、好評であった。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

更なる「哲学的なたいけん」を提供できるように、公民館等の行う事業とは違う趣の講座などを開催するように努め、無我苑らしい魅力ある事業を展開していく必要があると考える。

そのため、哲学講座の更なる充実、人気の講座として継続的に開催している聞香講座に続く講座として、和の歳時記教室や百人一首を使用した競技かるた講座などの開催を検討する。また、これらの事業を学校と連携して行う事で、高校生向け哲学講座や市内高等学校美術部の作品展開催、競技かるた講座への小中学校の参加呼びかけを行う。

他にも、美術館や芸術文化ホール、市民図書館などとも事業連携を検討する。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	7. 企画展開催事業	所属課	藤井達吉現代美術館
-------	------------	-----	-----------

1 総合計画での位置づけ

4 章 2 節 1 芸術文化の振興 ②自主運営事業の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
市民に国内外の魅力ある優れた美術作品を紹介する企画展や、この地方を中心に活躍した作家や芸術文化に焦点を当てた企画展を開催する。また、藤井達吉の業績を顕彰するために収蔵されている作品を常設展示する。 これらを通じ、市民の芸術文化の向上を支援するとともに、ふるさと碧南に対する愛着や誇りを育むことを目的とする。
評価対象とした理由
市民に対して最も大きく働きかけるものは展示であり、市民に親しまれ、訪れたくなるような美術館となるためには、魅力ある企画展と郷土が生んだ芸術家藤井達吉を顕彰する常設展の開催が必要不可欠であるため。

3 事業費

29 年度決算額	30 年度決算額	元年度予算額
49,148 千円	60,063 千円	42,870 千円

4 取り組みの内容【D】

(1) 企画展の開催：平成30年度は、有料巡回展として長谷川利行展、愉しきかな！人生展、佐藤玄々（朝山）展を開催した。 観覧者数：33,327人（29年度：55,022人） ※歴史系企画展の観覧者数を含む。 (2) 常設展の開催：7期に分け藤井達吉の多くの作品を展示した。 観覧者数：22,335人（29年32,020人） (3) 共催展等の開催：ワークショップ作品展、HEKINANからのそれぞれのスピリッツ展X、碧南文化協会選抜美術展、市史収蔵品展、アンデパンダン展を開催した。 観覧者数：4,662人（29年度：9,208人）

5 達成度を測る指標

指 標	観覧者数				
指標の説明	企画展、常設展、共催展などの総観覧者数				
年 度	28 年度	29 年度	30 年度	元年度	2 年度
目標値	—	—	—	—	57,000 人
実績値	58,585 人	96,250 人	60,324 人	—	

6 取り組みの成果【C】

(1) 企画展 ア 平成30年度の企画展は、自由奔放な筆致や色づかいによる作品、その破天荒な生き方でも知られた長谷川利行展を始めとして、90歳を過ぎてなお現役で活動をした作家に焦点を当てた愉しきかな！人生展、日本橋三越本店に設置されている《天女（まごころ）像》を代表作とした佐藤玄々（朝山）展など、様々なジャンルの作品を観覧者に提供できた。
--

そして引き続き新聞等のメディアへの広報活動を積極的に行った結果、観覧者数は60,324人となった。ただ昨年度に比べ、有料企画展が1つ少なかった点、群を抜いてヒットした企画展がなかったことから、観覧者数は大きく減少した。

イ 各有料企画展では、美術館併設カフェと共同で「コラボランチ」を企画し、それぞれの展示内容に因んだ食事を提供。新聞等にも取り上げられ、観覧者数、カフェ利用者数の増加に寄与した。

ウ 有料企画展のアンケートでは「とても良かった」「良かった」が平均で96%を超える結果となり、過去の年度と比べても、とりわけ高い評価を得ることができた。アンケートでは、企画が良い、見ごたえがあったなど、好意的な意見を多数いただいた。

(2) 常設展

常設展は、美術館の名前を冠している藤井達吉の作品の良さを伝える絶好の機会である。そのため、あまり展示されていない作品や季節に合わせたものなど、工夫をこらし工芸品から日本画、陶芸作品などを紹介することができた。

(3) 共催展

昨年度までに引き続き、市民の作品や藤井達吉の創作魂を継承する作家の作品などを、来館者に知ってもらうことができた。

7 残されている課題【C】

企画展観覧者数は前年度の3分の2弱の結果となった。有料企画展の数が1つ少ない点や大入りとなった企画展がなかった点などが要因であるが、過去の年度別観覧者数でも、同様に多く入った年とそうでなかった年の数字の波がかなり大きい。この波をなるべく小さくする点を課題と考えており、恒常的に来館頂けるお客さま（ファン）をいかに増やすかに腐心したい。

また、企画展開催時の主に土・日曜日は、美術館近くの駐車場が不足しがちになる。その際は臨海公園駐車場などへ誘導しているが、館から少し離れていることもあり、駐車場に対する不満が来館者から寄せられている。現在適当な用地を交渉・探索中であるが、すぐに対応するのは難しい。

8 外部評価者の評価【C】

藤井達吉現代美術館は、総合計画によれば、「美術工芸家藤井達吉の業績を顕彰し、市民の芸術文化向上に資するため」平成20年に開館し、以来、「本市の美術振興の拠点として収蔵品の充実に努めるとともに、魅力ある企画展を積極的に開催する」とともに、「市民ギャラリーなどを活用して市民に芸術活動の場を提供して」いる。

「国内外の優れた魅力ある美術作品を紹介する企画展」では、平成30年度は、有料巡回展覧会として「長谷川利行展」、「愉しきかな！人生展」、「佐藤玄々（朝山）展」を企画開催した。そして、新聞等のメディアへの広報活動を積極的に行ったりしたが、観覧者の数は、前年度に比べ企画展の開催回数が減ったことや猛暑などの影響で大きく減ったが、様々なジャンルの作品が展示され、観覧者からは「とても良かった」「良かった」といった声が96%にも達し、好評であった。

また、美術館併設カフェと共同企画で「コラボランチ」を提供し、来館者の増加を試みている。

藤井達吉の常設展は、これまであまり展示されていない工芸品や日本画、陶芸作品など、展示替えを工夫を凝らして7回行い、より多くの観覧者に作品のよさなどを伝えようと努めている。

本年度も、市民の作品展や碧南文化協会選抜美術展などの共催展も開催し、市民の芸術文化の向上を支援している。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

企画展については、引き続きPR活動に力を入れ集客に努め、来館者が満足できる内容を提供していきたい。また、美術館併設カフェとの共同企画も続け、「食」の面でも来館者に楽しんでもらえるよう工夫を重ねていく。

駐車場については、令和元年度に美術館南の土地を駐車場用地（約7台分）として取得予定。ただ混雑時を想定すると、まだ十分な用地を確保できているとは言えないため、引き続き用地確保に努めたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	8. 教育普及事業	所属課	藤井達吉現代美術館
-------	-----------	-----	-----------

1 総合計画での位置づけ

4章2節1 芸術文化の振興 ③芸術文化団体活動と教育普及の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的
幅広い世代の人々に美術に親しんでもらえるよう、様々な教育普及事業に取り組み、美術情報の提供に努める。また、学校教育を始め他の教育活動との連携を図っていく。
評価対象とした理由
教育普及事業は、美術館の理念の中で位置づけられている重要な事業の一つであるため。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	元年度予算額
12,496 千円	15,309 千円	14,878 千円

4 取り組みの内容【D】

(1) 講演会の開催 各企画展において、著名な講師を招聘し、講演会や記念対談を10回開催。 参加者数：483人（29年度：6回 430人）
(2) ギャラリートークの開催 当館学芸員により企画展の内容を分かりやすく解説し、市民の芸術文化の向上を支援するため、各企画展でギャラリートークを計22回開催した。 参加者数：511人（29年度：25回 898人）
(3) ワークショップの開催 美術館に親しみを持ってもらい、創作活動の楽しさを味わってもらうため、子どもワークショップシリーズ、夏休み親子ワークショップ、企画展ごとの関連ワークショップなど計62回開催した。 参加者数：723人（29年度：65回 832人）
(4) 美術館学習 優れた美術作品を鑑賞する美術館学習を開催することで、豊かな感性や創造力を高めるとともに、将来にわたって芸術文化に親しむ心を育てることを目的に市内小学5年生が佐藤玄々（朝山）展を、中学1年生がゆしきかな！人生展を鑑賞した。 参加者数：1,432人（29年度：1,513人）

5 達成度を測る指標

指 標	参加者数				
指標の説明	講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、美術館学習の合計参加者数				
年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
目標値	—	—	—	—	1,500人
実績値	3,239人	3,673人	3,144人	—	

6 取り組みの成果【C】

(1) 講演会

例年に引き続き、該当企画展の内容に精通した著名な講師を全国から招き、より内容を掘り下げたものを開催できた。観覧者数自体が盛況だったこともあり、ほとんどの講演会等で定員を大きく上回る参加者でにぎわった。なかでも愉しきかな！人生展で97歳の現役作家、野見山暁治氏と当館館長の対談が行われ、100人を超える参加者でにぎわった。

(2) ギャラリートーク

学芸員が作家解説や作品解説などを行った。昨年度に比べ、数字は落ち込んでいるものの、ときにユーモアを交えるなど、工夫をこらした説明を行った。

(3) ワークショップ

ア 子どもワークショップでは、スプーンを使った絵を描写、紙彫刻の制作、ステンドグラスの作成、紙芝居づくりなど、毎回様々なジャンルを用意し、子どもたちの自由な発想を大切にしたい講座を開催した。

イ 企画展関連ワークショップでは、創作をとおして展覧会の内容やコンセプトに迫るプログラムを行った。愉しきかな！人生展では認知症の方やその家族、60歳以上の方を対象にアートトリップ対話型アート鑑賞プログラムを実施。専門のアートコンダクターが引率し、グループで作品を鑑賞しながら、感じたことを自由に発言してもらったり、創作体験を通じて認知症対策・予防を促す新しい取り組みにも挑戦した。

(4) 美術館学習

昨年度に引き続き、応募があった小学校を対象に美術館学習の前後でアートカードを使った出前授業を行うほか、作品を見た際の自分の気持ちを整理・分析するワークシートの作成、対話型鑑賞を取り入れる等、児童生徒の美術鑑賞を深めるサポートができた。また学校とは話し合いも多く重ね、情報共有を図ることができた。

7 残されている課題【C】

(1) ワークショップ：当館ではあまり来館されない傾向にある乳幼児、中高校生、子育て世代を対象とした講座や、障がいを持つ方なども視野に入れた講座の企画に努め、あらゆる方に開かれた市民に親しまれる美術館を目指す。30年度はこれらの点を意識したワークショップも開催できたが、引き続き当館所蔵作品や企画展を活用した美術館ならではのプログラムの考案に努める。

8 外部評価者の評価【C】

藤井達吉現代美術館は、市民の芸術文化の振興に資するため「文化協会、市民団体等への支援と連携強化事業」や「小中学校連携、教育普及事業」などにも力を注いでいる。

美術館では、幅広い世代の人々に美術に親しんでもらえるように、大きく4つの教育普及事業に取り組んでいる。具体的には、(1) 講演会の開催や(2) ギャラリートークの開催、(3) ワークショップの開催、(4) 美術館学習の指導支援である。

講演会は、企画展の内容に精通した著名な講師を全国から招聘して、10回開催。

ギャラリートークは、各企画展の内容を学芸員ができるだけわかりやすく開設して、作家やその作品に対する理解が深まるように努めている。

美術館に親しみを持ってもらい、創作活動の楽しさを味わってもらう企図で、子どもワークショップや夏休み親子ワークショップなどを開催している。

美術館学習では、優れた美術作品を鑑賞し、豊かな感性や想像力を高めるとともに、将来にわた

って芸術文化に親しむ心を育てようとするもので、市内の小学５年生と中学１年生を対象に、学校と話し合いを重ね、情報共有を図りながら、取り組んでいる。

これからも、学校や「文化協会、市民団体等との連携強化」を図りつつ、幅広い市民に美術に親しんでもらい、本市の芸術文化の振興が図られていくことを期待したい。

９ 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【Ａ】

平成３０年度は認知症にスポットを当てたワークショップや、介護を題材とした講談、からくり人形の実演など、新たな試みを実現できた。今後も小中学生を含めた幅広い市民に美術・芸術に親しんでもらえるよう、継続してきたワークショップや講演会に加え、工夫をこらした事業を展開していきたい。

＊(P)lan（計画）→(D)o（実施）→(C)heck（点検・評価）→(A)ction（見直し・処置・改善）

主要事業名	9. 文化財の啓発事業	所属課	文化財課
-------	-------------	-----	------

1 総合計画での位置づけ

4章2節2 文化財の保護と活用 ③啓発事業の推進

2 事業の目的・理由【P】

目的
文化財は、地域の歴史、文化を理解するのに不可欠な地域の財産であり、その保存、更には活用、情報発信を図ることが重要である。
文化財の調査・研究の成果を踏まえ、それを活用する一環として、市民を始め多くの方に身近に文化財を感じることでできる歴史系企画展を始めとする文化財の啓発事業を実施することで、文化財保護や郷土の歴史への理解を深め、愛着を持ってもらうことを目的とする。
評価対象とした理由
文化財の保護には、市民の協力と理解が必要不可欠であり、また、市長マニフェストにある「発信力の強化、碧南の歴史のメジャー性発掘と広域的発信」を進めていくための事業であるため。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	元年度予算額
8,941 千円	7,200 千円	4,838 千円

4 取り組みの内容【D】

(1) 歴史系企画展「へきなんの文化財」の開催
ア 内容 平成30年度は、碧南市制70周年・美術館開館10周年・碧南市文化財保護条例制定50周年と複数の節目の年であり、広く市民にPRしたい碧南にゆかりのあるテーマを取り上げ、文化財の中でも代表的なものである碧南市内の指定文化財（重要文化財3件、愛知県指定文化財4件、碧南市指定文化財47件、国登録文化財2件）を中心に、碧南に関連した文化財や史料を、実物展示やパネルで紹介した（出品件数46件、パネル紹介22件）。中でも、国指定の重要文化財である刀剣2点（個人の所蔵物）は、今回、本企画展の趣旨をご理解いただき出品を許された貴重な文化財であり、藤井達吉現代美術館において初めての公開となった。 また、指定されていない文化財の中でも、調査研究により極めて貴重な価値が認められた作品（後の平成31年3月7日に市文化財に指定）2点を展示した。ともに藤井達吉現代美術館が寄贈を受けた石川三碧コレクションの中に含まれていた作品で、『明月記断簡』は、平安末期から鎌倉初期の貴族・藤原定家の日記「明月記（めいげつき）」の原本から離れた一紙（断簡）であり、『てこくま物語』は、室町時代の御伽草子の絵巻物で、永らく出現が待たれていた神戸松蔭女子学院大学所蔵本の揃いと考えられる永禄9（1566）年に書かれた作品であると判明し、この機会に展示することができた。他にも、遍照院のお堂に安置されていた巨像・木造三面六臂大黒天立像など、普段間近で見ることのできない貴重な文化財も多く展示することができた。
イ 期間 平成30年9月19日（水）～10月21日（日） 29日間
ウ 会場 藤井達吉現代美術館
エ 観覧料 一般400円、高大生200円、小中生100円
オ 観覧者数 3,926名（うち有料458名）（29年度 5,132名 36日間）

1日平均観覧者 135名（29年度 142名）

(2) 文化財展「鷺塚城主水野忠重と片山家」の開催

ア 内容 鷺塚村庄屋片山家は、江戸時代、矢作川流域幕府領の米を江戸に運んだり、矢作橋の築造に尽力するなど、重要な役割を担っていた。また、片山家が残した、松平家に仕えたことや水野家の人々とともに力を合わせ戦国時代を乗り越えたことが書かれた古文書の覚を中心に紹介した。例年、解説書を1,000部作成して配布しているが、本年度は、内容が複雑で難しいこともあり、通常の解説書に加え簡易版も作成し配布した。さらに、少しでも分かりやすいものにするため、想像絵図を挿し絵として多く使用し、難しい内容を和らげる工夫をした。

イ 期間 平成30年11月10日（土）～25日（日） 14日間

ウ 会場 文化会館

エ 観覧者数 約1,500名（29年度 約1,000名）

1日平均観覧者 約107名（29年度 約71名）

(3) 文化財防火デー行事の開催

ア 内容 法隆寺金堂壁画が焼損した1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動を展開している。当市においても、碧南消防署及び地元住民の協力のもと消火訓練等を実施した。

イ 日時 平成31年1月24日（木）

ウ 場所 光輪寺（棚尾地区）

エ 参加者数 32名（29年度 50名）

(4) 古文書入門講座の開催

ア 内容 初心者を対象にくずし字の読み方を学び古文書を読んだ。

イ 日時 平成31年1月16日、30日、2月13日、20日（全て水曜日）

ウ 場所 藤井達吉現代美術館

エ 参加費 400円

オ 参加者数 延べ34名（29年度 延べ50名）

1日平均参加者 9名（29年度 10名）

5 達成度を測る指標

指 標	1日当たりの観覧者数				
指標の説明	文化財を活用する事業の一環として実施した歴史系企画展、文化財展、文化財防火デー行事、古文書講座の1日当たりの観覧者数、参加者数。 (開催期間が画一的でなく比較可能にするため。)				
年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
目標値	—	—	—	—	—
実績値	212人	274人	283人	—	

6 取り組みの成果【C】

(1) 歴史系企画展

市制70周年にふさわしく碧南にゆかりのある文化財の数々を展示・紹介することができた。国指定の重要文化財である刀剣2点をはじめ、後に市指定文化財に指定した新出の明月記断簡

やてこくま物語、総高182cmもある米俵に乗った三面大黒天などの実物を藤井達吉現代美術館で展示できたことは、美術館開館10周年にも華を添えることができた。観覧に訪れた多くの方々に対して、代々受け継がれた文化財の素晴らしさや大切さを広く伝えることができた。

(2) 文化財展

砦城であった鷲塚城の城主・水野忠重（姉は徳川家康の母・於大の方）ら水野家が、鷲塚村庄屋片山家とともに戦国時代を乗り越えたことなどをはじめ、水野家に関連する資料を広く市民に紹介することができ、難しい面もあったが、簡易版の配布するなどの工夫もして、市内外を問わず多くの方に観覧いただき、大変好評であった。

(3) 文化財防火デー行事

当日は、お寺の関係者や地区住民の参加もあり、多くの参加者で実施できた。火災を想定した本堂から文化財を持ち出したり、実際に文化財所有者が消防署へ通報する訓練もでき、有意義な行事が実施できた。

(4) 古文書入門講座

今年で4回目の開講となった。昨年度よりも更に参加者数は減少してしまったが、古文書を読解する講座は珍しく、受講生からは大変好評であった。

7 残されている課題【C】

文化財課では機会があるごとに市史・民俗資料を収集しているが、その保管場所が手狭になっている。また、現在、収蔵した資料を活用した展示を藤井達吉現代美術館や文化会館で行っているが、年間のうち、一定期間のみの展示となっている。近隣市では歴史博物館や資料館などの施設で常設展示を行っており、当市としても、市民に広く情報発信をして文化財保護意識の高揚を図っていくためには、収蔵した市史・民俗資料の保管場所及び常設展示の出来る施設の確保が必要と考える。

8 外部評価者の評価【C】

文化財は、地域の貴重な財産であり、その保護と活用を図るとともに、市民の文化財に対する理解、意識の高揚を図ることは重要である。そのため、文化財の調査と保護、市史資料・民俗資料の整理と活用とともに、文化財の啓発事業を推進していくことが求められる。

総合計画では、啓発事業の推進の基本事業の一つに、「歴史系企画展開催事業」が挙げられており、碧南市制70周年、藤井達吉現代美術館開館10周年、碧南市文化財保護条例制定50周年の節目である平成30年度は「へきなんの文化財」をテーマに、歴史系企画展を企画実施している。内容は、碧南に関連した文化財や史料を実物展示やパネルで紹介するもので、藤井達吉現代美術館にて開催された。観覧者は、一日平均135名で、前年度と同様に好評であった。

また、文化財展「鷲塚城主水野忠重と片山家」を開催し、江戸時代に片山家が果たした役割や古文書の覚えなど、解説書とその簡易版も作成配布して、市民の理解が深まるように努めている。

平成31年1月24日には、碧南消防署や地元住民の協力の下、棚尾地区にある光輪寺にて「文化財防火デー」にちなんだ防火訓練が実施され、防火や文化財の保護に対する意識の高揚が図られている。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

市民の文化財に対する理解、意識の高揚を図るため、歴史系企画展や文化財展などの開催を通して、市民にPRしていきたい。特に、市民参加型である古文書入門講座については、テーマや開講日などを工夫し、より多くの参加が見込めるようにしていきたい。

また、文化財保護のための調査研究を継続して実施するとともに、市史資料・民俗資料の整理や活用を積極的に推進し、市民の文化財に対する保護意識の高揚につながるような事業の展開を心掛けていきたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	10. 図書館利用拡大のための事業	所属課	文化創造課（市民図書館）
-------	-------------------	-----	--------------

1 総合計画での位置づけ

第4章第2節3 活用される学術資源の充実 ①利用者に応じたサービスの提供

2 事業の目的・理由【P】

目的
赤ちゃんからお年寄りまで、誰でも気軽に利用できる文化施設として、利用者の生涯学習活動や趣味・娯楽等の知的好奇心に応えられるサービスや資料の提供に加え、おはなし会や調べ学習講座などの事業を通じて利用者の日常生活に役立つ施設づくりを目指す。
評価対象とした理由
平成28年度に策定した『碧南市の図書館サービス計画（第二次）』では基本理念を「そこに行くのが楽しくなる図書館をめざして」としており、利用者が快適に利用できる図書館、また市民と協働で事業・行事を行い、利用者と共に歩む図書館を目指すため。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	元年度予算額
22,756千円	23,018千円	23,314千円

4 取り組みの内容【D】

(1)『碧南市の図書館サービス計画（第二次）』掲載事業に沿った活動を行った。
(2)「碧南の図書館友の会」や読み聞かせボランティアグループと共催行事を行い、市民とともに歩む図書館活動を目指した。また、ボランティア講座を開催し、ボランティア養成を積極的に行った。
(3) 図書館ホームページの魅力を維持するため、行事案内やブログの更新を積極的に行った。
(4) おはなし会や調べ学習講座など、年齢別・世代別の行事を開催し、いろいろな年齢層の市民に対し、図書館を利用するきっかけ作りを行った。
(5) 調査目的の利用者に所蔵資料をしっかりと提供できるようさまざまな取組を行った。
(6) 市制70周年記念関連行事で「宇宙」をテーマにした各種イベントを開催した。
(7) 本に親しみ、市民の知的好奇心を喚起し実生活に役立つ情報を入手できるように、新たな資料を受け入れた。

5 達成度を測る指標

指 標	(1) 図書館貸出利用者数 (2) 市民登録者数				
指標の説明	(1) 図書館で資料貸出を行った人数 (2) 利用者カードの登録者数（市内在住者）				
年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
目標値	(1) 159,000人 (2) 30,000人	(1) 159,000人 (2) 30,000人	(1) 159,000人 (2) 30,000人	(1) 160,000人 (2) 30,000人	(1) 160,000人 (2) 30,000人
実績値	(1) 122,204人 (2) 34,031人	(1) 116,894人 (2) 35,021人	(1) 115,373人 (2) 36,059人	—	—

6 取り組みの成果【C】

- (1) 計画事業の内、問合せや要望が度々あった「パソコン専用席」(4席)を新たに設置した。
- (2) 友の会との共催事業「音楽と朗読の夕べ」は、行事参加者が211名、「リサイクル本バザー」は、友の会会員延べ90名が本の搬入等の作業に協力し、448人へ2,740冊の本が販売された。また、地域や学校で読み聞かせ活動をする人を育てる「おはなしボランティア養成講座」(全3回)は延べ40名、目が不自由な人へ対面朗読等を行う人を養成する「音声訳ボランティア養成講座」(全6回)は延べ33名が受講しボランティアの育成につながった。
- (3) 平成30年度のホームページへのアクセス数は平均7,060件/月(前年度対比4%の増)であった。また、ホームページからの資料予約件数は24,439件(前年度対比3%の増)となった。
- (4) 行事参加人数は年齢層別で、0歳～未就園児向 1,353人(平成29年度1,352人)、幼児小学生向5,229人(同4,470人)、中学高校生向247人(同371人)、一般向1,874人(同1,586人)であり全体として増えた。
- (5) レファレンスサービスの受付件数は全館で7,902件、前年度対比13%の増となった。(平成29年度6,976件)また、調査に時間がかかる新聞記事への問合せが度々あるが、「中日新聞データベース」を導入し、迅速に回答できるようにした。
- (6) 宇宙に関する資料の展示を行い、「宇宙工作ワゴン」「りかあそび：エッグドロップ実験」「おはなし会スペシャル宇宙」等の行事を行い、864人の参加者があった。
- (7) 新たな資料の受け入れ点数は11,263点、除籍等の数は9,315点であった。蔵書更新率(*1)は3.87%、蔵書新鮮度(*2)は2.2%と前年度より若干上回った。(平成29年度受け入れ点数11,297点、除籍等の数9,903点、更新率3.83%、新鮮度2.04%)。
(*1) 蔵書更新率：(新規受入冊数÷除籍冊数)÷年度末蔵書冊数
(*2) 蔵書新鮮度：新規受入冊数÷年度末蔵書冊数

7 残されている課題【C】

- (1) 開架書架の空きスペースが目立つ状態だが、魅力ある書棚を保持する工夫が必要である。また、閉架書庫の余裕がなく古い資料の管理に手間もかかるため、積極的に除籍を行う必要がある。
- (2) 団体貸出用の資料の消耗が激しく、新しい資料の補充が必要である。
- (3) 館外貸出数は減少しているが、館内に滞在する人やレファレンス件数は増加している。資料を充実するとともに、館内施設の修繕等も行い、使いやすい施設にすることが必要である。

8 外部評価者の評価【C】

図書館は「生涯学習の中核機能」を担っており、「市民の知的活動を支援する貴重な学術資源」の宝庫でもある(総合計画参照)。しかしながら、平成21年頃から、いわゆる活字離れなどが進行し、図書館の入館者及び貸出利用者は減収傾向にあり、「利用者の求める情報を的確に提供できる環境の整備や電子媒体を含めた情報源の収集を進め」て、図書館機能の充実を図っていくことが求められている。

図書館では、平成28年度に策定した「碧南市の図書館サービス計画(第二次)」に沿って、図書館機能の充実を図る活動事業に取り組んでおり、「碧南の図書館友の会」との共催で、「音楽と朗読の夕べ」や「リサイクル本バザー」を行って、多くの市民とともに歩む図書館をめざしている。

学校や地域で、読み聞かせ活動を担う人を育てる「おはなしボランティア養成講座」や、「音声訳ボランティア養成講座」を開催し、ボランティアの育成が図られている。

市制70周年記念の関連行事として、「宇宙」に関する史料の展示や「おはなし会スペシャル宇宙」などを開催し、高い評価を得ている。

来館者のニーズに応じたサービスの提供や資料の収集、補充に努めているが、平成30年度の蔵書更新率は3.87%、蔵書新鮮度は2.2%となっている。

これからも、学校をはじめ他の機関との連携を深め、市民が利用しやすく、「行くのが楽しくなる図書館づくり」を推進していくことが期待される。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

図書館には市民の知る権利、学習する権利を保障する基本的な役割がある。図書館を調査目的で利用する人は増えており、問合せを受けるレファレンス件数は増加している。文部科学省作成の「これからの図書館像」においても、「市民の生活や仕事に関わる課題の解決にも対応し、支援できるようにサービスや運営を改革することが必要」と記述されている。また、読書の楽しみのため、知的好奇心を刺激する魅力ある蔵書を整備することも大切であるため、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、どのようにしたら地域の実情に即した運営になるかを考えながら図書館運営を行っていききたい。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	11. 水族館・科学館活動実施事業	所属課	海浜水族館
-------	-------------------	-----	-------

1 総合計画での位置づけ

第4章第2節3 活用される学術資源の充実 ③博物館活動と自然保護活動の充実

2 事業の目的・理由【P】

目的

学校と連携し命ある教材の活用を主とした、子供たちが生き物と接する機会を提供することで、環境や生き物の生息状況の変化に気づき、自然環境に関心をもつ子供の育成に寄与する。

また、近年の環境問題に合わせ、西三河地方で絶滅の危機にある淡水生物の保護活動を推進し、普及啓発を図る。

評価対象とした理由

水族館設立当初から継続して行っている事業である。今後も子供たちをはじめとする地域住民にとって意義ある事業として継続していくため。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	令和元年度予算額
(1) 3,647 千円	(1) 4,547 千円	(1) 5,646 千円
(2) 3,072 千円	(2) 122 千円	(2) 3,157 千円
(3) 2,164 千円	(3) 2,774 千円	(3) 3,434 千円
(4) 5,063 千円	(4) 2,855 千円	(4) 5,795 千円

4 取り組みの内容【D】

今年度は3月23日のリニューアルオープンに伴い、11月26日～3月22日まで約4か月間、臨時休館したため、開館日数が減少となった。

(1) 水族館・科学館資料収集事業

展示生物の収集は、リニューアルオープンに向けて2月から3月にかけて集中的に実施した。

(2) 校外学習実施事業

ア 市内小学校2・4・6年生の水族館・科学館学習の要請対応

受け入れ人数：延べ84件2,792人（29年度：89件3,014人）

イ 来館する市外学校関係の要請に応じる講話、実習等

受け入れ人数：35件1,034人（29年度：56件1,498人）

(3) 博物館活動実施事業

ア バックヤードツアー、写生大会、自然観察会、夏期教室等の教育普及活動

参加者数：10件3,370人（29年度：14件4,472人）

イ 希少淡水魚の繁殖数（平成30年度実績）

ネコギギ（天然記念物）：14尾 ウシモツゴ：160尾 カワバタモロコ：150尾

(4) 特別展開催事業

夏の特別展「外来生物展」を開催。入場者数：42,980人（29年度：41,038人）。

企画展、イベントの観覧者数：計19回 延べ168,359人（29年度：18回 193,348人）

5 達成度を測る指標

指 標	(1) 特別展生物を含む飼育生物数(300 種目安) (2) 市内外学校関係団体からの要請に対する対応件数 (3) 開催延べ日数		
指標の説明	(1) 展示や学習に活用する生物の飼育数 (2) 市内外学校の校外学習・出張授業等要請への対応件数 (3) 特別展、ミニ企画展、イベント等の開催延べ日数		
年 度	29 年度	30 年度	元年度
目標値	(1)300 種 (2)90 件 (3)250 日	(1)300 種 (2)90 件 (3)250 日	(1)300 種 (2)90 件 (3)250 日
実績値	(1)283 種 (2)121 件 (3)409 日	(1)272 種 (2)119 件 (3)335 日	

6 取り組みの成果【C】

1 1 月 2 6 日～3 月 2 2 日まで約 4 か月間、臨時休館したため、開館日数が減少。 (1) 資料収集事業 リニューアルオープン後、マアジの群れ展示やオオサンショウウオの展示など印象を大きく変えたことにより、非常に好評を得ている。 (2) 校外学習実施事業 市内小学校の受け入れについては、予定通り全校を受け入れることができた。 (3) 博物館教育普及活動事業 自然観察会、バックヤードツアーおよび夏期教室などメインとなる企画については例年並みに実施することができた。 (4) 特別展開催事業 昨今の話題に勘案し「外来生物」をテーマにした特別展を開催したことで、来館者の関心を高められた。また期間中に専門家を招き外来生物に関する講演会では合計 1 1 0 名の聴講者が参加し、関心の高さを伺えた。

7 残されている課題【C】

(1) 飼育生物数は、単に種類数にこだわらず、地理的特色等に基づく展示・収集計画が求められるが、入手ルート、収集時期などを考慮した収集計画が必要となっている。 (2) 水族館の役割のひとつ「自然に関心をもつ子供の育成」のためには、市内外を問わず訪問指導や来館による校外学習への対応が望まれる。新たに設置したビオトープの学習の場としての活動、プログラムの整備などが必要と感じている。 (3) 博物館としての活動、希少生物の保護は継続して進めていくことが求められる。地域の自然財産を守ることの重要性を次世代に伝えていく体制をどのように確保していくかが今後の課題である。 (4) 水族館が伝えたいメッセージと話題性の両立ができるような企画を目指している。常設展示では、扱えないテーマや生物の展示に挑戦しているが、展示スペースに 2 4 時間稼働可能な空調施設がないため、企画や展示できる資料や生物が制限されている。
--

8 外部評価者の評価【C】

海浜水族館・青少年海の科学館は、「海や水生生物に関する資料を収集・保管・展示し、地域住民の教養・レクリエーションなどに資するため」（総合計画参照）、（１）水族館・科学館資料収集事業や（２）校外学習実施事業、（３）博物館活動実施事業、（４）特別展開催事業に取り組んでいる。

開館以来３７年が経過し、「施設・機器などの老朽化や展示の陳腐化が進んでいる」との指摘を踏まえ、平成３０年１１月２６日から４ヶ月ほど臨時休館。そして、この間、展示生物の収集に精力的に努めるとともに既存施設の改修を行い、市民の利用しやすい環境の整備に努めている。

平成３１年３月２３日にリニューアルオープン後は、来場者に展示の印象をそれまでとは大きく変えて、好評を得ている。

校外学習実施事業については、市内のすべての小学校からの要請を受けて実施して、自然環境に関心をもつ子どもの育成に寄与している。

自然観察会やバックヤードツアーなどを例年通り実施するとともに、「外来生物」をテーマにした特別展を開催し、展示や専門家の講演会を通して、多くの来場者に外来生物への関心を高めてもらった。

館長をはじめ職員一人一人が使命感や情熱を持って事業の企画、実施に努めているが、これからは海浜水族館においては、「野生動物をはじめとする自然環境の保護・種の保存活動の充実と技術の向上」を図るとともに、学校と連携し、子どもたちが、「海に対する基本的な知識と探求心を育てるとともに、自然と人間との関わりを学習し、自然を大切にする豊かな人間性」をはぐくむように努めることが期待される。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

新たに設置された屋外ビオトープを活用した教育普及活動を展開してく。また、希少生物をはじめとする自然環境の保護についてはこれまで培ってきたノウハウを使い、当館だけの活動に留まらず、近隣企業等と連携しながら地域全体で普及啓発活動を盛り上げていきたいと考えている。

特別展・企画展では、普段の常設展では扱えないようなテーマを積極的に取り上げ、話題性だけでなく、知的欲求や興味をかき立てるような展示活動をこれからも継続して実施していく。また、バックヤードツアーをはじめとする体験イベントについても、バリエーションを増やし来館者が楽しみながら学べるプログラムを整備していきたいと考えている。

* (P)lan (計画) → (D)o (実施) → (C)heck (点検・評価) → (A)ction (見直し・処置・改善)

主要事業名	12. 水族館・科学館整備事業	所属課	海浜水族館
-------	-----------------	-----	-------

1 総合計画での位置づけ

第4章第2節3 活用される学術資源の充実 ④施設の整備

2 事業の目的・理由【P】

目的
リニューアル構想の一環である老朽化した既存施設を改修し、市民の利用しやすい環境整備に努める。
評価対象とした理由
リニューアル構想を実現し、総合計画目標入館者14万人を達成するため。

3 事業費

29年度決算額	30年度決算額	元年度予算額
93,155 千円	88,614 千円	0 円

4 取り組みの内容【D】

水族館・科学館リニューアル事業（事業費 88,614 千円）
(1) エントランス及び館内サイン改修工事 全館有料化に伴うエントランスおよび休憩室の改修や授乳室の増設、水族館、科学館、ビオトープをつなぐ動線の確保など、来館者がくつろげる空間づくりを行った。
(2) 大水槽擬岩改修委託 水族館展示のメインとなる大水槽の擬岩が長期使用により劣化、破損が目立ってきていたため、ディスプレイを一新し、展示の一新を図った。

5 達成度を測る指標

指 標	水族館入場者数				
指標の説明	リニューアル構想の一環である老朽化対策及び新規施設の設置を行い、総合計画で目標としている総入場者数14万人を目指す。				
年 度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
目標値	140,000 人	140,000 人	140,000 人	150,000 人	150,000 人
実績値	131,783 人	138,256 人	117,664 人	—	—

6 取り組みの成果【C】

(1) リニューアルオープンに伴い、エントランスの改修工事を受付カウンターや休憩エリアを一新し、さらに授乳室を2箇所整備できたことにより、来館者が安心してくつろげる空間づくりを提供することが出来た。
(2) 開館以来、未改修で劣化が激しかった大水槽のディスプレイについては、休館期間中に一新し、収容魚類もマアジやメバルなど近海魚が群れて泳ぐ姿を見ていただ「くことで、大きく印象が変わり、来館者からも好評である。

7 残されている課題【C】

- (1) 開館から37年経過しているため、大型の付帯施設（空調、重油タンクなど）の老朽化が著しい。緊急度や法令を踏まえ計画的な対応が必要である。
- (2) 大水槽の改修は実施することができたが、そのほかの展示水槽については未実施である。陳腐化もさることながら、子供や高齢者が観覧するうえで配慮が必要な箇所もあるため、何らかの改善策を講じる必要がある。

8 外部評価者の評価【C】

開館以来37年が経過し、「施設・機器などの老朽化や展示の陳腐化が進んでいる」（総合計画）との指摘などを踏まえ、老朽化した既存施設を改修し、市民が快適に、安心して利用できる施設とするために、（1）エントランス及び館内サイン改修工事と（2）大水槽擬岩改修委託を行っている。

エントランス及び館内サイン改修工事により、受付カウンターや休憩エリアが一新され、授乳室の増設も図られ、来館者が安心して過ごせる空間を提供できるようになった。

また、水族館展示のメインとなる大水槽の擬岩も劣化や破損が目立つようになって、これを一新し、その結果、展示の見栄えが良くなっている。

海浜水族館・青少年海の科学館においては、老朽化した大型の付帯施設の計画的な対応策や市民の利用しやすい環境の整備充実を図っていくことが望まれる。そして入場者を総合計画で目標としている14万人に近付ける努力工夫が求められている。

9 評価結果をふまえた今後の取り組み方向【A】

施設の老朽化および展示の陳腐化に対して、平成29年度には屋外に新施設ビオトープを設置し、平成30年度にはエントランスおよび休憩室の改修、大水槽の擬岩改修が完了した。

今後については、施設維持管理面において課題となっている来館者の目に触れることの少ないバックヤード部分の改修、さらには空調、飼育設備等の更新が未実施であるため、市の財政状況を踏まえた長期計画を立て、施設の長寿命化と魅力ある施設づくりの両立を図っていきたい。

* (P)lan（計画）→(D)o（実施）→(C)heck（点検・評価）→(A)ction（見直し・処置・改善）

6 総合計画の施策に対する取り組み

平成30年度に各課・各施設が実施した事業について、総合計画及び教育大綱の主要施策の方向毎に整理し一覧にしました。複数の施策に該当する事業は、もっとも該当すると思われる施策に整理しました。

(1) 生きる力を育む義務教育の充実

ア 教育内容や環境の充実（74事業）

主要施策の方向		
生徒指導を充実するための教職員の加配を行い、こころの教育を推進する。また、少人数指導のための教職員の加配により、個を伸ばす教育環境の充実を図るとともに、スクールアシスタントの拡充により発達障害のある児童生徒に対する支援を行う。 キャリア教育、職場体験学習を継続的にを行い、児童生徒の社会性の育成を図る。また、経済的な支援、日本語教育を必要とする児童生徒などに対しては、必要な支援を図れるように努める。 こころを育て、学びを支える魅力的な学校図書館づくりを行うために、図書館司書の配置や蔵書の充実に努める。 新しい教育分野や教職経験に応じた研修を充実し、教員の資質向上に努める。また、教育相談室と、適応指導教室（フリースクールへきなん、ほっぷ倶楽部）の充実を図る。		
事業内容	担当課等	庶務課
1 教育委員会運営事業	2 教育委員会点検評価事業	
3 庶務課事務管理事業	4 学校基本調査事業	
5 遠距離通学児童通学費補助事業	6 私立高等学校授業料補助事業	
7 まなびさぼーと資金支給事業	8 まなびさぼーと基金積立事業	
9 まなびさぼーと資金支給審査会運営事業	10 学校等情報配信事業	
11 教材整備事業（小学校）	12 図書整備事業（小学校）	
13 小学校要保護準要保護生徒援助事業	14 小学校特別支援教育就学奨励事業	
15 教材整備事業（中学校）	16 図書整備事業（中学校）	
17 中学校要保護準要保護生徒援助事業	18 中学校特別支援教育就学奨励事業	
事業内容	担当課等	学校教育課
1 学校教育課事務管理事業	2 小中学校副読本等充実事業	
3 小中学校指導用資料充実事業	4 小中学校文化部運動部代表派遣事業	
5 音楽会実施事業	6 特別支援教育・通級教室実施事業	
7 生き方発見チャレンジ活動事業	8 外国人児童生徒指導事業	
9 特別支援教育推進事業	10 学校生活支援事業	
11 現職教育研修委託事業	12 学校教員・教諭研修事業	
13 教職員研究指導委託事業	14 教育研究室・教育論文募集事業	
15 教員研修充実事業	16 エドモンズ市英語教師招へい事業	
17 指導法改善事業	18 学校教育力向上指定研究委託事業	
19 療休等緊急対応代替教員配置事業	20 少人数指導授業推進事業	
21 小学校外国語活動事業	22 学校図書館活動推進事業（司書職員）	
23 中学校英語活動授業	24 中学校生徒指導対応充実事業	
25 小中学校ハートフレンド派遣事業	26 学校教育研究等受託事業	

27 小学校みどりの学校実施事業	28 中学校みどりの学校実施事業
29 日本語教育支援充実事業	30 養護教諭支援員配置事業
31 小学校災害賠償補償給付事業	32 新川小学校教材費配分事業
33 中央小学校教材費配分事業	34 大浜小学校教材費配分事業
35 棚尾小学校教材費配分事業	36 日進小学校教材費配分事業
37 鷺塚小学校教材費配分事業	38 西端小学校教材費配分事業
39 中学校災害賠償補償給付事業	40 新川中学校教材費配分事業
41 中央中学校教材費配分事業	42 南中学校教材費配分事業
43 東中学校教材費配分事業	44 西端中学校教材費配分事業
45 保健体育事務管理事業	46 小学生健康診断事業
47 小学校教職員健康診査事業	48 中学生健康診断事業
49 中学校教職員健康診査事業	50 小学校就学時健康診断事業
51 学校環境管理事業	52 日本スポーツ振興センター事業
53 中学校部活動外部講師委嘱事業	54 副読本「わたしたちのへきなん」改訂事業
55 教育相談施設移転整備事業	56 碧南市学校保健大会実施事業

イ 家庭・地域・学校の連携強化（１７事業）

主要施策の方向		
スクールカウンセラー及び心の教室相談員による教育相談を充実し、保護者への支援を強化し、地域に信頼される公教育の実現に向け、社会の変化に伴う教育課題の解決を図る。 地域の伝統を生かした教育活動を推進することで、特色ある学校づくりや地域との交流を促進し、家庭・地域・学校が共同体となるように働きかける。また、学校評価に関する取組を充実し、開かれた学校づくりを推進する。		
事業内容	担当課等	学校教育課
1 教育相談事業	2 小中学校心の教室相談事業	
3 スクールカウンセラー活用事業	4 新川和太鼓クラブ充実事業（新川小学校）	
5 中央小いきいきふれあい活動事業（中央小学校）	6 地域の伝統と文化を引き継ぐ雅楽クラブ事業（大浜小学校）	
7 地域と連携した藤井達吉子ども美術館づくり事業（棚尾小学校）	8 日進ふれ愛生き生きランド事業（日進小学校）	
9 F B C活動事業（鷺塚小学校）	10 エコクラブによる油ヶ淵の水質調査・飼育活動事業（西端小学校）	
11 焼き物作りを通して地域とのふれあいを深める事業（新川中学校）	12 N I E 実践活動事業（中央中学校）	
13 地域人材活用事業（中央中学校）	14 SNS を正しく利用できる ICT スキル名人育成事業（南中学校）	
15 地域のひとふれあい豊かな心を育む緑化活動事業（東中学校）	16 地域協働の学校づくり事業（西端中学校）	
17 吹奏楽部スプリングコンサート活動事業（東中学校）		

ウ いじめ防止に向けた取り組み（１事業）

主要施策の方向
「碧南市いじめ防止基本方針」に基づき、教育委員会、学校、家庭、地域、その他の関係機関と連携して、「いじめをしない、させない、見逃さない」ための組織的な取組を積極的に展開する。また、いじめの防止等のための対策を推進するため、関係機関等の連携強化やいじめ防止に関する措置を実効的に行うための組織を整備する。そして、子どもたち一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくり、まちづくりに努める。

事業内容	担当課等	学校教育課
1 学校教育課事務管理事業		

エ こどもの健康づくりの推進（15事業）

主要施策の方向		
地域との協力・連携による食育への取組や体力づくりの強化により、児童生徒の健康教育を推進する。 地産地消を推進し、安心して食べることができる給食の提供に努め、効率的な学校給食提供体制を確立する。また、災害時にも安定した給食ができる体制づくりに努める。		
事業内容	担当課等	庶務課（給食センター）
1 学校給食事務管理事業	2 学校給食費徴収事務業務委託事業	
3 施設維持管理事業	4 器具維持管理事業	
5 器具整備事業	6 給食センター運営審議会運営事業	
7 調理・洗浄器具等整備事業	8 給食業務職員管理事業	
9 賄材料調達事業	10 食器具・食材料検査事業	
11 バイキング給食実施事業	12 給食残さ資源化事業	
13 学校給食配送事業	14(株)ヘキサソフィーカンパニー委託事業	
15 学校給食費臨時事業		

オ 学校施設の整備充実（29事業）

主要施策の方向		
児童生徒の安全・良好な教育環境の確保に向け、学校施設の老朽化対策を推進する。また、学校内のICT環境の充実に努める。 市民図書館との連携による魅力ある学校図書館整備など、市内の教育関連施設との連携を強化し、学校施設の有効活用に努める。		
事業内容	担当課等	庶務課
1 新川小学校管理費配分事業	2 中央小学校管理費配分事業	
3 大浜小学校管理費配分事業	4 棚尾小学校管理費配分事業	
5 日進小学校管理費配分事業	6 鷺塚小学校管理費配分事業	
7 西端小学校管理費配分事業	8 小学校施設維持管理事業	
9 小学校スクールヘルパー派遣事業	10 小学校管理用備品整備事業	
11 小学校施設老朽化対策事業	12 小学校管理費臨時事業（庶務課分）	
13 小学校空調設置事業	14 図書室OA化事業	
15 小学校教育用コンピュータ運営事業	16 小学校校内LAN運営事業	
17 新川中学校管理費配分事業	18 中央中学校管理費配分事業	
19 南中学校管理費配分事業	20 東中学校管理費配分事業	
21 西端中学校管理費配分事業	22 中学校施設維持管理事業	
23 中学校スクールヘルパー派遣事業	24 中学校管理用備品整備事業	
25 中学校施設老朽化対策事業	26 中学校管理費臨時事業（庶務課分）	
27 中学校空調設置事業	28 中学校教育用コンピュータ運営事業	
29 中学校校内LAN運営事業		

(2) 生涯を通じて学び続ける学習環境の充実

ア 生涯学習推進体制の強化（１７事業）

主要施策の方向		
地域における生涯学習の担い手として、生涯学習をコーディネートする人材の発掘、育成に努める。また、学習成果を活用し、地域に活かす仕組みづくりに努める。 生涯学習支援ネットワークの整備・構築を行うことにより、生涯学習関連情報の収集・発信を一元化し、効果的な情報発信を行う。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 社会教育委員会運営事業	2 文化振興基金積立事業	
3 文化会館・中央公民館事務管理事業	4 新川公民館事務管理事業	
5 新川公民館運営審議会運営事業	6 中部公民館事務管理事業	
7 中部公民館運営審議会運営事業	8 大浜公民館事務管理事業	
9 大浜公民館運営審議会運営事業	10 棚尾公民館事務管理事業	
11 棚尾公民館運営審議会運営事業	12 日進公民館事務管理事業	
13 日進公民館運営審議会運営事業	14 鷺塚公民館事務管理事業	
15 鷺塚公民館運営審議会運営事業	16 西端公民館事務管理事業	
17 西端公民館運営審議会運営事業		

イ 学習機会の充実（１０事業）

主要施策の方向		
文化教室・高齢者教室・生涯学習大学講座などの内容の充実に努めるとともに、学校との連携を強化し、公開講座の実施など、学社融合による生涯学習機会の提供に努める。また、公民館においては、今後も市民ニーズに対応し、各地域の特色を生かした事業を展開する。 文化祭、公民館まつりなど、学習成果を発表する場の充実に努めるとともに、社会教育関係団体を始めとする各団体への助言・支援を行う。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 文化祭実施事業	2 O D O R O M A I 実施事業	
3 講座・講演会等開催事業	4 新川公民館自主文化事業	
5 中部公民館自主文化事業	6 大浜公民館自主文化事業	
7 棚尾公民館自主文化事業	8 日進公民館自主文化事業	
9 鷺塚公民館自主文化事業	10 西端公民館自主文化事業	

ウ 生涯学習施設の整備（４事業）

主要施策の方向		
老朽化した施設の計画的改修に努め、市民が安心して利用できる施設の環境整備に努める。また、各公民館については、人々がつながり、住みよい地域づくりに貢献する拠点施設としての機能充実に努める。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 社会教育公民館施設維持管理事業	2 公民館費臨時事業	
3 文化会館・中央公民館施設維持管理事業	4 文化会館・中央公民館費臨時事業	

(3) 多くの市民が参加するスポーツの振興

ア スポーツ推進体制の強化（２１事業）

主要施策の方向		
平成27年3月に策定した「スポーツ推進計画」に基づき、スポーツがより身近になるよう、提供体制や参加・協力体制の整備を推進する。 スポーツ交流や競技スポーツへの支援に努めるとともに、指導者の育成に向けた指導者講習会などの充実及び表彰制度の拡充を図る。また、体育協会を始めとする団体の支援に努め、スポーツの裾野拡大を図る。		
事業内容	担当課等	スポーツ課
1 学校体育事務管理事業	2 学校体育行事实施事業	
3 学校体育費臨時事業	4 社会体育事務管理事業	
5 スポーツ選手強化委託事業	6 スポーツ推進審議会運営事業	
7 スポーツ推進委員会運営事業	8 碧南市レクリエーション協会補助事業	
9 碧南市体育協会補助事業	10 碧南市スポーツ少年団補助事業	
11 へきなん総合型スポーツクラブ補助事業	12 地域スポーツ推進事業	
13 スポーツ指導者養成事業	14 スポーツ推進計画推進事業	
15 万博メモリアル駅伝出場委託事業	16 少年スポーツ海外交流補助事業	
17 スラックライン全国大会実施補助事業	18 JFAこころのプロジェクト「夢の教室」実施事業	
19 スポーツでつなぐ夢・みらい教室実施事業	20 臨海体育館事務管理事業	
21 臨海体育館費臨時事業		

イ スポーツ機会の拡充（12事業）

主要施策の方向		
総合型地域スポーツクラブの周知に努め、地域との連携を強化しながらクラブの育成を図る。 初心者や運動習慣のない人でも参加しやすい初心者運動教室やウォーキング事業などを開催し、気軽にスポーツを楽しめる機会の充実に努める。また、レクリエーションやニュースポーツの普及に努める。 日常的な健康づくりやスポーツ、レクリエーション活動のための身近な設備の充実に努める。		
事業内容	担当課等	スポーツ課
1 各種レクリエーション・スポーツ大会実施事業	2 市民駅伝大会委託事業	
3 へきなんマラソン実施事業	4 市民スキー大会実施事業	
5 西三河大会実施事業	6 市民総合体育大会実施事業	
7 スポーツ教室開設事業	8 学校体育施設開放事業	
9 碧南市新体操発表会実施事業	10 大型ヨット体験乗船事業	
11 全国女子軟式野球選抜交流大会実施事業	12 碧南緑地ビーチスポーツ推進事業	

ウ スポーツ施設の整備と利活用（8事業）

主要施策の方向		
公共スポーツ施設や学校体育施設を市民が公平かつ優先的に利用できるように、既存の公共施設予約システムを有効に活用する。また、企業や事業者と連携し、企業施設や商業施設の活用を促進する。 老朽化したスポーツ施設の計画的な改修を進めるとともに、市民から要望の多いウォーキングやジョギングコースの整備について、手軽に安全にウォーキングができるよう既存施設の有効活用も視野に入れながら検討を進める。また、海・川・湖などの地域資源を活用したスポーツ環境の整備にも努める。		

事業内容	担当課等	スポーツ課
1 体育施設維持管理事業	2 体育施設整備事業	
3 碧南緑地スポーツ施設整備事業	4 勤労者体育センター維持管理事業	
5 勤労者体育センター費臨時事業	6 臨海体育館施設維持管理事業	
7 臨海体育館器具維持管理事業	8 臨海体育館費臨時事業	

(4) 青少年の健全育成環境の充実

ア 健全な社会環境づくりの推進（5事業）

主要施策の方向		
喫煙や薬物乱用、非行の防止、モラル向上などの啓発活動を行うとともに、声かけ運動やパトロール活動を推進し、支えあう隣人関係の再構築を図る。また、家庭や地域の教育力向上を図るため、親子の共同体験や家庭教育に関する学習機会の提供に努め、家庭や地域と連携した子育てを推進する。 公民館を拠点にした親子ふれあい活動を充実し、情報交換や人材交流が図れる地域コミュニティの構築に努める。 携帯電話やスマートフォン等を介して、いじめや犯罪の被害者や加害者にならないよう、正しい使い方と使う人のこころの育成に努める。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 子ども会活動推進事業	2 碧南市女性団体連絡協議会補助事業	
3 親子ふれあい活動推進事業	4 地域「おやじの会」活動事業	
5 P T A活動事業		

イ 青少年育成環境の充実（3事業）

主要施策の方向		
青少年健全育成活動の情報交換や共有化を行い、各活動の実施時期に合わせた啓発に努める。 青少年育成団体などへの指導とその育成に努めるとともに、連携を強化し、青少年が楽しみながら自主的に学ぶ機会の提供に努める。また、環境美化活動などの地域活動への青少年の参加を促進し、各種体験活動の機会の充実に努める。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 碧南市青少年育成市民会議事業	2 青少年育成推進員活動事業	
3 青少年問題協議会運営事業		

ウ 青少年リーダーの育成（4事業）

主要施策の方向		
年少リーダーからジュニアリーダーズクラブ、さらには社会教育リーダーへとステップアップする環境の整備と、新たな人材の確保に努める。 また、HEXPO STAFF の育成に向け、新たな人材の確保や独自イベントへの支援、行政イベントなどへの参加促進に努める。 さらに、社会教育リーダーや HEXPO STAFF と、他市青年団体などとの交流を促進し、活動の活性化を支援する。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 成人式実施事業	2 プレイメイト活動事業	

3 H E X P O S T A F F 活動事業	4 碧南市スカウト育成連絡協議会補助事業
------------------------------	----------------------

(5) 芸術文化の振興

ア 芸術文化振興体制の強化（2事業）

主要施策の方向		
市内外の施設間の連携を強化し、事業や運営方法などの情報交換に努める。また、施設の運営方法や利活用のあり方を見直し、利用しやすい施設運営に努める。 小中学校などの教育機関、各種活動団体との連携を強化し、芸術文化への市民の興味を高め、利用者の拡大を図る。		
事業内容	担当課等	文化財課（無我苑）
1 無我苑維持管理事業		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 彫刻維持管理事業		

イ 自主運営事業の充実（4事業）

主要施策の方向		
市民に豊かな芸術文化を提供するために、市内外の関係機関や専門家、市民団体と連携し、質の高い自主事業の開催に努める。また、アウトリーチ活動を通じ、芸術文化に触れる機会の充実に努める。 伊藤証信や藤井達吉といった、施設に縁のある人物の調査・研究と、それらを理解するうえで役立つ資料や作品の収集・保存に努め、教育面も含め、施設の存在価値を高めるような事業を展開する。		
事業内容	担当課等	文化財課（無我苑）
1 無我苑運営事業		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 美術館事務管理事業	2 美術館協議会運営事業	
3 美術品運営事業		

ウ 芸術文化団体活動と教育普及の充実（1事業）

主要施策の方向		
文化協会や社会教育関係団体など、積極的に活動する芸術文化団体への支援や団体相互の交流の機会を充実させ、活動の活性化を図る。また、団体発展のため、指導者などの人材育成を図り、優れた芸術文化活動の定着に努める。 小中学校などとの連携を図るとともに、市民向けの講演会やワークショップを通じて、広く芸術文化教育の普及に努める。		
事業内容	担当課等	生涯学習課
1 社会教育事務管理事業		

エ 広報・情報発信の強化と施設等の整備（4事業）

主要施策の方向		
市内外からの入場者数を増やし、知名度の向上を図るため、これまでの広報活動に加え、施設間の連携やマスメディアなどを活用した積極的な情報発信に努める。 施設の計画的な改修により、市民が満足して利用できる施設整備に努める。		

事業内容	担当課等	文化財課（無我苑）
1 無我苑維持管理事業	2 無我苑運営事業	
3 無我苑費臨時事業		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 美術館施設管理事業		

(6) 文化財の保護と活用

ア 文化財の調査と保護（4 事業）

主要施策の方向		
市民の協力を得ながら、貴重な文化財の調査研究を進め、積極的に指定を行う。また、有形文化財だけではなく工芸技術などの無形文化財や、囃子・三番叟・チャラボコといった民俗文化財の伝承、保存に努める。		
事業内容	担当課等	文化財課
1 文化財保護審議会運営事業	2 文化財調査事業	
3 指定文化財保存事業	4 大浜陣屋広場・旧大浜警察署維持管理事業	

イ 市史史料・民俗資料の整理と活用（1 事業）

主要施策の方向		
貴重な史料の散逸を防ぐため、市史史料・民俗資料を収集しその整理と活用にあつめる。また、碧南ゆかりの偉人についても調査研究し、顕彰にあつめる。 蓄積された市史史料・民俗資料の積極的な活用に向け、保管施設の整備にあつめる。		
事業内容	担当課等	文化財課
1 市史資料調査事業		

ウ 啓発事業の推進（1 事業）

主要施策の方向		
市民に対する積極的な周知や PR による保護意識の高揚にあつめるとともに、子どもたちに文化財を伝えるための体験機会の創出にあつめる。		
事業内容	担当課等	文化財課
1 歴史系企画展開催事業		

(7) 活用される学術資源の充実

ア 利用者に応じたサービスの提供（6 事業）

主要施策の方向		
「碧南市子ども読書活動推進計画」及び「碧南市の図書館サービス計画」を推進し、資料を充実させるなど、あらゆる人が利用しやすい図書館づくりに努め、生涯にわたる読書活動の支援を行う。 “碧南の図書館友の会”を始めとするボランティア団体との交流や連携を強化し、市民との協調を図り、市民とともに歩む図書館づくりを推進する。		
事業内容	担当課等	文化創造課（市民図書館）
1 図書館協議会運営事業	2 図書館用図書整備事業	

3 図書館利用促進事業	4 ボランティア活動推進事業
5 南部分館運営事業	6 中部分館運営事業

イ 図書館機能の充実（6事業）

主要施策の方向		
「知る権利を保障する」施設として、利用者の求める情報を的確に提供できる環境の整備や電子媒体も含めた情報源の収集を進める。 地域の文化を大切にする図書館として、市政情報コーナーの充実を図り、郷土資料の収集に努めるとともに、碧南に関するレファレンス事例のデータベース化を進める。 本館・分館・公民館図書室のネットワーク体制を整備するとともに、学校を始め他の機関との連携を深め、利用しやすい図書館づくりを推進する。		
事業内容	担当課等	文化創造課（市民図書館）
1 図書館事務管理事業	2 図書館施設維持管理事業	
3 図書館コンピュータシステム運営事業	4 中部分館施設管理事業	
5 中部分館臨時事業	6 市民図書館費臨時事業	

ウ 博物館活動の充実（7事業）

主要施策の方向		
海浜水族館・青少年海の科学館においては、水族館の使命でもある、野生生物を始めとする自然環境の保護・種の保存活動の充実と技術の向上に努める。 また、学校と連携し、子どもたちが生き物調査を行う機会を設け、環境や生き物の生息状況の変化に気づき、自然環境に関心をもつ子どもを増やすように努める。 藤井達吉現代美術館においては、当地出身で日本近代工芸の先駆者のひとりであった藤井達吉の顕彰、子どもたちを始め幅広い世代へ向けた教育普及事業、まちづくりの拠点施設としての役割という柱のもと、美術に関わる情報を発信し、生活の豊かさや心のゆとりをもたらす美術館となるように努める。		
事業内容	担当課等	藤井達吉現代美術館
1 企画展開催事業		
事業内容	担当課等	水族館・科学館
1 水族館・科学館資料収集事業	2 校外学習実施事業	
3 博物館教育普及活動事業	4 日本産希少淡水魚繁殖事業	
5 野外調査事業	6 特別展開催事業	

エ 施設の整備（8事業）

主要施策の方向		
施設の劣化に対応し、利用しやすい施設環境の整備に努める。 また、海浜水族館は展示内容（常設展示）の定期的な整備に努めるとともに、施設の老朽化に対して施設改修を行う。		
事業内容	担当課等	水族館・科学館
1 施設維持管理事業	2 機器維持管理事業	
3 展示用施設維持管理事業	4 車両維持管理事業	
5 機器整備事業	6 施設整備事業	
7 水族館・科学館臨時事業	8 水族館・科学館リニューアル事業	

資料 第5次碧南市総合計画における成果目標値一覧表

施策	指 標	指標の説明	計画当初	平成 29 年度 平成 30 年度	目標値
2 生きる力を育む義務教育の充実	「義務教育」の満足度	市政アンケートにおける「義務教育」の満足度について「満足」、「ほぼ満足」、「普通」と答えた人の割合	61.5% (平成 21 年度)	64.7% 62.4%	70.0% (令和 2 年度)
	「家庭・地域・学校の連携」の満足度	市政アンケートにおける「家庭・地域・学校の連携」について「十分行われている」、「ある程度行われている」と答えた人の割合	35.1% (平成 21 年度)	39.7% 38.9%	50.0% (令和 2 年度)
	小中学生朝食欠食率	小中学生へのアンケートにおいて「朝食を食べない」と答えた児童生徒の割合	小学生 3.6% (平成 20 年度)	5.5% 3.3%	小学生 0.0% (令和 2 年度)
			中学生 9.1% (平成 20 年度)	9.1% 4.8%	中学生 3.0%以下 (令和 2 年度)
	学校施設耐震化率	小中学校建物の全棟数のうち耐震性があるもの又は耐震補強済みの建物の棟数の割合	88.9% (平成 21 年度)	100.0% 100.0%	100.0% (平成 26 年度)
3 生涯を通じて学び続ける学習環境の充実	生涯学習推進計画の改定	平成 13 年度に策定した生涯学習推進計画の評価と見直し、計画の改定	—	— —	改定 (平成 24 年度)
	文化教室、講座等の参加率	各公民館で開催する文化教室などの定員に対する申込者数の割合	88.8% (平成 20 年度)	89.1% 82.5%	100.0% (令和 2 年度)
	生涯学習施設の利用率	文化会館、市民プラザ、公民館の利用可能枠に対する利用回数の割合	42.9% (平成 20 年度)	41.1% 42.1%	45.3% (令和 2 年度)
4 多くの市民が参加するスポーツの振興	週 1 回以上スポーツを行っている市民の割合	市民スポーツ意向調査において「週 1 回以上スポーツを行っている」と答えた人の割合	27.0% (平成 16 年度)	31.1% 34.4%	50.0% (平成 27 年度)
	臨海体育館施設利用率	臨海体育館アリーナの利用可能枠に対する団体利用の割合	77.0% (平成 20 年度)	64.6% 62.5%	90.0% (平成 27 年度)
	スポーツ施設改修整備率	耐用年数の半分を過ぎたスポーツ施設に対する、施設改修の割合	25.0% (平成 21 年度)	58.3% 58.3%	50.0% (平成 27 年度)
5 青少年の健全育成環境の充実	不良行為少年補導件数	市内における喫煙、深夜徘徊などによる補導件数	215 件 (平成 21 年)	120 件(新基準) 142 件(新基準)	100 件 (令和 2 年)
	中学生ボランティア参加人数	地域の青少年育成行事における中学生ボランティアの参加人数	1,093 人 (平成 20 年度)	1,341 人 1,119 人	2,000 人 (令和 2 年度)
	HEXPO STAFF 登録人数	組織の対象年齢である 18～22 歳の登録者数の合計	45 人 (平成 21 年度)	24 人 44 人	60 人 (令和 2 年度)

施策	指 標		指標の説明	計画当初	平成 29 年度 平成 30 年度	目標値
6 芸術文化の振興	文化会館	芸術文化関連施設利用率	ホール、展示室、音楽・演劇練習室の利用可能枠に対する利用回数の割合	64.3% (平成 20 年度)	50.3% 56.4%	71.4% (令和 2 年度)
		「芸術・文化」の満足度	市政アンケートにおける「芸術・文化」の満足度について「満足」、「ほぼ満足」、「普通」と答えた人の割合	59.8% (平成 21 年度)	68.2% 70.0%	70.0% (令和 2 年度)
		文化協会登録者数	碧南文化協会の登録者数	1,388 人 (平成 20 年度)	960 人 927 人	1,500 人 (令和 2 年度)
	芸術文化ホール	施設稼働率	エメラルドホール・シアターサウスの開館日数に対する利用された日数の割合	62.0% (平成 20 年度)	67.0% 71.5%	70.0% (令和 2 年度)
		自主文化事業入場率	音楽・演劇など自主文化事業の入場定員に対する入場者数の割合	63.0% (平成 20 年度)	71.6% 65.6%	75.0% (令和 2 年度)
		芸術文化団体主催事業開催数	芸術文化ホールを拠点に活動する団体が主催する事業の開催数	5 回 (平成 20 年度)	7 回 7 回	8 回 (令和 2 年度)
	哲学たいけん村無我苑	施設稼働率	安吾館、湧々庵の貸出可能回数に対する実使用回数の割合	41.4% (平成 20 年度)	46.9% 43.3%	53.5% (令和 2 年度)
		観覧者数	企画展、常設展の総観覧者数	12,000 人 (平成 20 年度)	9,397 人 9,666 人	12,600 人 (令和 2 年度)
		教育普及事業参加率	講演会・講座などの定員に対する参加者の割合	84.6% (平成 20 年度)	93.2% 97.4%	90.0% (令和 2 年度)
	藤井達吉現代美術館	市内小中学校美術教諭との情報交換会開催数	市内の小中学校美術教諭(碧南市教育研修会造形部会)との情報交換会開催数	—	年 40 回 年 55 回	年 3 回 (令和 2 年度)
		観覧者数	企画展、常設展、共催展の総観覧者数	54,445 人 (平成 20 年度)	96,250 人 60,324 人	57,000 人 (令和 2 年度)
		教育普及事業参加者数	講演会・ギャラリートーク・ワークショップ参加者数	883 人 (平成 20 年度)	2,265 人 1,973 人	1,500 人 (令和 2 年度)
7 文化財の保護と活用	指定文化財件数		市内の指定文化財件数	42 件 (平成 21 年度)	56 件 59 件	53 件 (令和 2 年度)
	史料集の発刊数		収集された市史史料や碧南出身の人物に関する調査研究の成果として発刊された、碧南市史料及び同別巻の数	70 集 (平成 21 年度)	81 集 82 集	80 集 (令和 2 年度)
	企画展入場者数		歴史系企画展の入場者数	4,898 人／回 (平成 21 年度)	5,132 人／回 3,926 人／回	7,000 人／回 (令和 2 年度)
8 活用される学術資源の充実	図書館貸出利用者数		図書館で図書などの資料を借りた人の数	156,397 人 (平成 20 年度)	116,894 人 115,373 人	160,000 人 (令和 2 年度)
	図書館登録者(市民登録者)数		図書館における書籍などの貸出に必要な利用者カードの市民の登録者数	28,219 人 (平成 20 年度)	35,021 人 36,059 人	30,000 人 (令和 2 年度)
	海浜水族館展示種類数		水族館で展示する生物の種類数	300 種 (平成 20 年度)	283 種 273 種	300 種 (令和 2 年度)
	海浜水族館・青少年海の科学館年間入場者数		水族館・科学館の年間入場者数	131,371 人 (平成 20 年度)	138,256 人 117,664 人	140,000 人 (令和 2 年度)

令和元年度（平成30年度対象）
碧南市教育委員会 点検評価報告書

発行・編集 碧南市教育委員会

〒447-8601 碧南市松本町28番地

電 話 0566-95-9917

FAX 0566-41-7281

E-mail kshomuka@city.hekinan.lg.jp